

Hokkaido University News

北大時報

平成29年

10

No. 763 October 2017

北海道大学ホームカミングデー 2017の開催

お知らせ

・医療費通知事業の実施





ホームカミングデー 2017



全学ニュース

- 1 日本経済団体連合会会長・副会長等が本学を視察
- 2 北海道大学ホームカミングデー 2017の開催
- 18 北大フロンティア基金
- 20 平成29年度北海道大学インターンシップを実施
- 21 名和総長が東方経済フォーラム及び日露学生フォーラムに参加
- 22 コチュテル・プログラムに本学学生が初めて参加
- 22 アディアスアババ大学で「日本留学フェア」を開催
- 23 外国人留学生が鹿追町で小学生と農業体験を実施
- 24 Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙
- 25 「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」及び「日本語研修コース」入学式を挙
- 26 若者政策コンテスト決勝大会で新渡戸スクール生が入賞
- 26 新渡戸スクール修了式を挙
- 27 北海道大学が特色ある放射線安全管理の取り組みによっ
- て第1回森川記念賞を受賞
- 27 平成29年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
- 28 独立行政法人日本学術振興会 平成28年度特別研究員等審査会専門委員 (書面担当) 及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から4名
- 28 生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭を挙
- 29 高等教育研修センターにてシンポジウム等を開催
- 30 「北大テニュアトラック事業説明会」を開催
- 30 研究者のためのスキルアップセミナー⑩「プレゼンテーションのための非言語表現」を開催
- 31 TERRACE-科学とアートが出会う場所-Act 1「北海道というヴァナキュラーな風景」を開催
- 32 TERRACE MEETING「大友良英×中垣俊之と語るTERRACEってなんだ?」を開催
- 33 北海道大学×技術ベンチャーセミナー「研究開発型ベンチャー創出サミット」を開催

部局ニュース

- 34 タイ王国農業・協同組合省副大臣、同地理情報・宇宙技術開発庁副長官及び内閣府官房審議官が農学研究院を視察
- 35 歯学部創立50周年記念事業 (記念講演会、記念式典、記念祝賀会) を開催
- 36 工学研究院で土木工学研究棟改築記念式典を挙
- 37 北海道大学病院が夕張市と連携協定を締結
- 37 経済学研究院で嶺南大学校商経大学との共同セミナーを開催
- 38 国際広報メディア・観光学院が英国シェフィールド大学及びフィンランド・ヘルシンキ大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催

- 39 平成29年度 地球環境科学研究院公開講座「健康を目指す環境科学」を終了
- 39 薬学研究院で障害者差別解消とハラスメントをテーマにFD研修会を開催
- 40 FD研修「新渡戸ポートフォリオ (理学生命科学版) について」を開催
- 40 医学部・歯学部合同慰霊式を挙
- 41 動物慰霊式を挙
- 42 北海道大学病院で災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練を実施
- 43 北海道大学病院が第2回北海道国際医療ネットワークを開催
- 43 附属図書館で北海道大学インターンシップを実施
- 44 北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受入れ
- 45 環境健康科学研究教育センターが平成29年度前期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催
- 46 リーディングプログラム新プログラム生10名を採用
- 47 獣医学系事務部の近藤哲仁主任が全国レク大会スポーツチャンバラで総合優勝

お知らせ

- 48 医療費通知事業の実施

博士学位記授与 49

レクリエーション

- 57 教職員卓球大会の開催 - 団体戦・ペア・個人戦 -
- 58 平成29年度学内教職員フットサル大会の開催

諸会議の開催状況 59

学内規程 60

表敬訪問 61

人事 61

- 62 新任部局長等紹介
- 62 新任教授紹介
- 63 新任部課長等紹介

訃報

- 64 名誉教授 松川 健二 氏



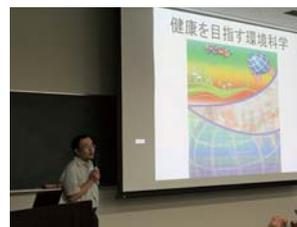
Integrated Science Program (ISP) 入学式



TERRACE-科学とアートが出会う場所-Act 1「北海道というヴァナキュラーな風景」



北海道大学病院 夕張市と連携協定締結



地球環境科学研究院 平成29年度公開講座「健康を目指す環境科学」

表紙：北海道大学ホームカミングデー 2017「歓迎式典・記念講演会」（関連記事2頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⁵⁹ タマネギ列車

■ 全学ニュース

日本経済団体連合会会長・副会長等が本学を視察

10月4日（水）、一般社団法人日本経済団体連合会（以下、「経団連」）から榎原定征会長（東レ株式会社相談役）をはじめ、岩沙弘道審議員会議長（三井不動産株式会社会長）、古賀信行副会長（野村ホールディングス株式会社会長）等、また、北海道経済連合会から高橋賢友会長や瀬尾英生専務理事など総勢約40名の方々が本学を訪れ、フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点を視察されました。

榎原経団連会長らは名和豊春総長らの挨拶を受けた後、西井準治理事・副学長から本学の組織型の産学連携について説明を受けられました。また、FMI共用機器室において、次世代センサーを視察されました。

榎原経団連会長からは、「これからの大学は人材育成や知の拠点として、いわゆるイノベーション、ナショナルシステムの主翼を担う機能をしっかりと果たしていただきたい。また、そのためには、ガバナンス改革を含めた大学改革を加速していただき、以前とは違う産官学連携を進めていただくことを期待したい」と発言がありました。

続いて、事務局に場所を移し、意見交換会が行われました。山西健一郎副会長からは、Society5.0実現のためには、大学と企業とのオープンイノベーションが重要であり、組織対組織の大型共同研究を推進する必要があること、また、榎原会長からは産学官連携によりリベラルアーツ及びコミュニケーション力を持った博士人材の強化

を進めるとともに、世界大学ランキングは外形的な評価によりランク付けされており、アカデミックな部分で評価されれば、北海道大学も十分に国際的な水準として高い位置にあると思っている、スピード感と情報発信に力を入れ、引き続き産業界とともに頑張りたいなど、当初の予定時間を超えて活発な意見が交わされました。

当日は天候にも恵まれ、北海道の爽やかな秋空の下、大学と産業界との連携推進のための議論が深まった一日となりました。

（総務企画部総務課）

【主な視察者】

会 長	榎原 定征（東レ株式会社 相談役）
審議員会議長	岩沙 弘道（三井不動産株式会社 会長）
副 会 長	古賀 信行（野村ホールディングス株式会社 会長）
副 会 長	岡本 罔衛（日本生命保険相互会社 会長）
副 会 長	永易 克典（株式会社三菱東京UFJ銀行 相談役）
副 会 長	工藤 泰三（日本郵船株式会社 会長）
副 会 長	石塚 邦雄（株式会社三越伊勢丹ホールディングス 特別顧問）
副 会 長	國部 毅（株式会社三井住友フィナンシャルグループ 社長）
副 会 長	山西健一郎（三菱電機株式会社 会長）
事 務 総 長	久保田政一
常 務 理 事	藤原 清明



西井理事・副学長の説明を受ける経団連ご一行



共用機器室で説明を受ける榎原会長ら



本学役員との意見交換の様子

北海道大学ホームカミングデー2017の開催

9月30日（土）、「Be ambitious again!」をモットーに、「北海道大学ホームカミングデー 2017」を開催しました。6回目の開催となる今年のホームカミングデーはまずまず天候にも恵まれ、秋の爽やかな風を感じられるなか、同窓生や在学生の保護者など多くの参加者が札幌キャンパスに集いました。

全学行事のほか、部局・同窓会が主催する様々な行事が行われ、参加者は旧交を温めたり、現役の学生と世代を超えた交流を持つなど、エルムの森で楽しいひとときを過ごしました。

なお、次回、第7回のホームカミングデーは、平成30年9月29日（土）に開催を予定しています。

（総務企画部広報課）

全学行事

総務企画部広報課

歓迎式典・記念講演会

9月30日（土）10:00~11:45 クラーク会館講堂 参加者約250名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」「永遠の幸」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は本学経済学部の卒業生である北海道放送株式会社（HBC）の船越ゆかりさんが務め、最初に名和豊春総長から「北海道大学141年の歩みと2つの使命」と題してこれまでの歩みや現在の取組、目指すべき姿について報告があり、「2026年の創基150年を見据え、同窓生をはじめとするすべての関係者と力を合わせてさらに邁進していきたい」とのメッセージを伝えまし

た。次に、石山 喬北海道大学校友会エルム会長が歓迎の挨拶として、国立大学を取り巻く環境とともに、校友会エルムの果たす役割や意義について話されました。

続いて、本年度の全国発明表彰で最も優れた発明に贈られる「恩賜発明賞」を受賞した医学研究院の白土博樹教授が「動いている臓器のがんのX線治療・陽子線治療で世界をリードする北海道大学」と題して講演を行い、わかりやすく研究内容を説明しました。

その後、本年度からの新たな取組として、「学生からの活動報告」と題し、フロンティア基金による支援事業の受給学生3名によるインターンシップや留学等に関する報告と、七大戦実行委員会委員長による本年度の結果報

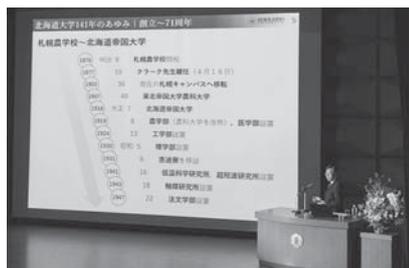
告がありました。

そして、歓迎のステージでは、民謡研究会合唱団「わだち」による躍動感あふれる演舞が行われ、会場は熱気に包まれました。

ステージの締めくくりは、「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には恵迪寮同窓会の呼びかけで役員等もステージに



交響楽団による演奏



本学の歩みについて報告する名和総長



歓迎の挨拶を述べる石山会長



講演する白土教授

上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィ

ナーレを迎えました。参加者の皆様には本学の“今”を体感していただけた

ことと思います。



活動報告を行う4名の学生



民謡研究会合唱団「わだち」による演舞



「都ぞ弥生」の斉唱

部局・同窓会主催行事

文学研究科・文学部，教育学院・教育学研究院・教育学部，法学研究科・法学部，経済学院・経済学研究院・経済学部

公開シンポジウム・同窓会総会・同窓会合同懇親会

9月30日（土）14:00～19:00 人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）103室等 参加者68名

文学部・教育学部・法学部・経済学部の4部局による共同開催として、「芸術フロンティア北海道～豊かな世界をつくることーそれが『アート』。～」と題し、北海道における行政、芸術家、批評家（市民）それぞれの立場から多様な芸術活動の現状について、報告・提言をいただき、それが単なる中央の模倣に終わるものではないことについて意見交換を行い、本学のこれからの役割について展望しました。

冒頭、名和豊春総長の挨拶後、同窓会幹事の池田証壽教授の総会司会によ

り、シンポジウム全体の説明がなされ、北村清彦教授の司会により、前半は3人のシンポジストによる提言（札幌市立大学事務局長 川上佳津仁氏、北海道情報大学教授 三浦 洋氏、東海大学特任講師・映画監督 早川 渉氏）がなされ、後半は、参加したシンポジストを交え討論を行いました。参加者からも質問等があり、活発なパネルディスカッションが展開されました。

本シンポジウムには同窓生に加えて一般市民など約70名が訪れ、充実した

シンポジウムは成功裡に終了しました。

公開講演会終了後は、各学部同窓会による総会、次いで、文学部・教育学部・法学部・経済学部同窓会による合同懇親会が行われました。懇親会には秋元克広札幌市長（法学部同窓生）をはじめとして多くの同窓生が出席し、和やかな歓談のひと時を過ごし、学部を越えての交流を深め、盛会のうちに終了しました。



挨拶をする名和総長



会場の様子



パネルディスカッションの様子

情報科学研究科

2017年度北楡会・北海道大学情報系交流会

9月29日（金）13:30～17:45 フロンティア応用科学研究棟 参加者128名

9月29日（金）、工学部情報エレクトロニクス学科、情報科学研究科及び旧電気、電子、情報、生体系の各学科の同窓会である北楡会との交流会を開催しました。

交流会では開会挨拶に続いて、21研究室の大学院生が、所属する研究室の研究内容についてOB・OGにわかりやすく説明するポスター発表が行われました。発表を担当する学生とOB・OGが熱心に研究内容を議論する姿が見ら

れました。

引き続き、最近のトピックスに関する2件の講演が行われました。1件目は、井関農機株式会社の藤本 潔顧問による「オープンイノベーション時代の農工連携～裾野の広い施設園芸～」と題した講演でした。2件目は日本無線株式会社研究所の梅田成視副所長による「社会/産業のスマート化に向けた無線/電波の活用」と題した講演でした。両講演とも、これまでのご経

験・ご見識に基づいて今後の工学・情報科学の在り方にまで広がった、とても示唆に富んだ講演であり、講演に対する質疑も盛り上がりました。

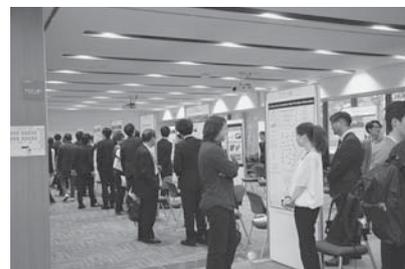
その後行われたポスター表彰と意見交換会では、3件の発表が優秀ポスター賞に選ばれ、伊藤明男北楡会会長より賞状が手渡されました。また、ポスター発表について教員、学生と北楡会会員との意見交換を行い、和やかな雰囲気の中、閉会となりました。



藤本氏の講演



梅田氏の講演



ポスター発表

水産科学院・水産科学研究院・水産学部、北水同窓会

水産学部卒業生のつどい ～講演会～

9月30日（土）14:00～16:00 学術交流会館第1会議室 参加者56名

水産学部では、卒業生の荒井一利氏（鴨川シーワールド総支配人）による講演会が行われました。講演会に先立ち、北水同窓会の水田浩之幹事長による開会の挨拶に始まり、引き続き、安井 肇学部長から函館キャンパスにおける近況報告の後、北水同窓会の横山

清会長から学生当時の思い出を交えながらの挨拶がありました。続いて、講演会では、「水族館と保全活動」と題して、荒井氏から国内外の水族館の現状や社会的役割、鴨川シーワールドにおける海獣類等の飼育や保全活動などの説明があり、大変興味深い内容の

講演となりました。

当日は、同窓生、教職員、学生など、あわせて約60名の方々に参加いただき、講演終了後には、学生と荒井氏との活発な質疑応答が交わされ、和やかな雰囲気のなか盛況のうちに閉会となりました。



安井学部長の挨拶



横山北水同窓会会長の挨拶



講演会の様子

環境科学院・地球環境科学研究院，環境科学同窓会

松野環境科学賞授賞式，修了生による講演会，コース・研究室紹介パネル展示，懇親会

9月29日（金）14:00～20:00 環境科学院D201，環境科学院エントランス，北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場収穫庫 参加者92名

6回目となる環境科学院ホームカミングデーは，今年も松野環境科学賞の授賞式が始まり，受賞者から講演がありました。学生を主な聴講者として迎えている本学院の講演会では，修了生が学院生時代の就職活動や学院修了後の社会での活躍，本学院での研究がどのように活かされているかを講演しています。Md. Shariful Islamさん，佐伯立さんは今も研究を続けられてお

り，教員になった藤田彩華さん，Venus Leopardasさんからは，教える側になってからの難しさや楽しさが伝わる，笑いも交えた楽しい講演でした。前内閣官房内閣審議官の山田安秀さんは，記憶にも新しいエボラ出血熱など，新感染症発生時に日本政府としての対応を各省庁に指令するという，ニュースの中の世界をお話しされ，興味深く内容の濃い講演となりました。

講演終了後は，北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場において懇親会を開催しました。30数名の参加があり，ジンギスカンを囲み，トウモロコシや馬鈴薯，ハム，ベーコン，牛乳，リンゴなど農場生産物を味わいながら，修了生，在學生，教員との和やかな交流の場となりました。



松野環境科学賞受賞者と学院長，副学院長



前内閣官房内閣審議官 山田さんの講演



懇親会の様子

理学院・理学研究院・理学部，生命科学院・先端生命科学研究院，理学部同窓会
理学部ホームカミングデー

9月30日（土）13:30～18:00 理学部2号館玄関ロビー他 参加者74名

6回目となる理学部ホームカミングデーは，今年も理学部同窓会総会をこの日にあわせて開催しました。

最初に，2号館玄関ロビーを会場に，理学部の現況報告を行いました。石森浩一郎理学研究院長・理学部長，泉屋周一同窓会理事長の歓迎挨拶の後，石森研究院長が近年の理学部関連における研究成果の説明や，世界から優秀な高度人材を惹きつけるための研究・教育環境の整備等に関して報告しました。

次いで，同窓会からの奨学金により

国際学会等において研究発表を行った大学院生3名が，旅行中のエピソードを交えて発表を行い，同窓生の方々は聞き入っていました。

その後，同窓会総会を本館大会議室で開催し，議案に対する審議を行いました。例年どおり多くの同窓生に出席いただき，同窓会の運営に関して熱心な質問や意見交換がなされました。

総会終了後，教職員と同窓生はファカルティハウス「エンレイソウ」に移動し，理学部&同窓会交流会に参加しました。

石森研究院長の挨拶・乾杯で交流会が幕開けし，立食形式による1時間半ほどの会でしたが，和やかな雰囲気が進み，歓談の合間には現職教員が各学科の近況を報告し，また，同窓生からは理学部を応援するお言葉をいただきました。

泉屋同窓会理事長の閉会挨拶・乾杯の後，同窓生は出身学科教員の案内で研究室見学，現役学生・教員との懇談会に参加し交流を深めました。



石森理学研究院長の近況報告



同窓会奨学生の発表



同窓会総会の様子

薬学研究院・薬学部

北海道大学薬学部の現状と第20回北海道大学薬学部生涯教育特別講座秋季講演会

9月30日（土）15:30～17:30 薬学部臨床薬学講義室 参加者149名

はじめの薬学部の現状では、佐藤美洋薬学部長から薬学部（薬学研究院）の組織、教育研究への取り組み等について報告がありました。

次いで、薬学部生涯教育特別講座秋季講演会が開催され、薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ、薬学部学生や教員等149名が参加しました。

薬学部生涯教育特別講座は、薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提

供することを目的として実施しています。今回は最初に、北海道大学病院薬剤部の齋藤佳敬先生から「化学療法で薬剤師は何が貢献できるか？～外来治療に着目して～」と題して、がん専門薬剤師の役割、特に処方への介入の重要性について、臨床研究の実例を交えながら解説がありました。

続いて、千葉大学医学部附属病院薬剤部の今井千晶先生に「がん診療に関わる薬剤師としてできること 腫瘍内科、血液内科の症例を中心に」と題し

てご講演いただき、薬剤を適正そして効果的に使用するための薬剤師の関わり方について、症例を示しながら大変わかりやすく解説いただきました。会場からは様々な質問が寄せられ、活発な議論が行われました。「あらためて臨床と基礎研究の両方の視点の大切さを感じました」「事例をあげての話は大変身近で勉強になりました」など数多くの意見が寄せられました。



齋藤先生



今井先生



会場の様子

農学院・農学研究院・農学部

市民公開・農学特別講演会「農と食が創る持続的な社会」

9月29日（金）10:00～11:50 農学部4階大講堂 参加者129名

本特別講演会は、明治31年発足の札幌農林学会が開催してきた学術講演会の中の特別講演会を継承・発展させてきたものであり、119年の歴史があります。平成9年以来、市民公開農学特別講演会として、広く一般市民の方々に公開しています。本年も、農学院・農学研究院・農学部、札幌農林学会、及び札幌農学同窓会による主催、北方生物圏フィールド科学センター共催で開催しました。

野口 伸副研究院長による開会挨拶の後、農学研究院の川端 潤教授より「機能性食品はなぜ効くのか—抗肥満作用物質の有機化学—」と題する講演がありました。機能性化合物の紹介に

続き、消化酵素阻害剤の単離・分析・作用機序解明から民間との共同研究まで、ご自身の研究を軸に詳しく解説され、改めて有機化合物の重要性を伝える講演でした。

続いて農学研究院の川村周三特任教授が「“やっかいどう米”からの進化—

北海道米、食味向上の軌跡と奇跡—」と題し講演しました。食味を左右する成分因子の説明に続き、北海道米食味の向上を長年にわたる食味試験データに基づき示し、品種改良に加え、栽培技術や選抜・貯蔵等の収穫後技術が「美味しい北海道米」に大きく貢献し



講演する川端教授



質問に答える川村特任教授

ていることを紹介しました。

例年午後に実施していましたが、今年は札幌農学同窓会130周年記念行事が予定されていたため、本特別講演会は午前中の実施となりました。早目の開始時刻ながら、同窓生だけではなく一般市民の方も多数集まり、大講堂に用意した席のほとんどが埋まる129人

の参加となりました（大学外の同窓生24名、一般市民71名を含む）。質問やポジティブな意見もあり、大変盛会となりました。

閉会に際し、本学や農学研究院による市民向け活動として公開講座や時計台サロンの簡単な紹介と参加・活用への呼びかけがありました。



会場の様子

国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院

ホームカミングデー@IMCTS2017（修了生meet在學生2017）

9月30日（土）13:00～19:30 メディア・コミュニケーション研究院メディア棟 参加者34名

国際広報メディア・観光学院のホームカミングデーは、恒例の「国際広報メディア・観光学院PRビデオ」の放映で開幕しました。

修了生講演会第1部では国際広報メディア研究科第4期の木村一生氏（大日本印刷株式会社）より「私のサラリーマン論～印刷会社営業、ラジオパーソナリティー、これから…～」と題して、また、第2部では観光創造専攻第7期の許玉萱氏（一般財団法人丘

のまちびえい活性化協会）より「観光まちづくりの現場から見てきたこと」と題して講演いただきました。それぞれの講演に対して、在學生や教員からいくつもの興味深い質問やコメントがありました。

修了生講演会に引き続き行われた在校生ワークショップは、「大学と社会との距離」というテーマで、国際広報メディア専攻及び観光創造専攻の学生が合同でプレゼンテーションを行いま

した。それぞれのプレゼンテーションに対して、発表者とフロアとの間で、現職教員やOB教員を巻き込んだの活発な質疑応答が行われました。

同窓会総会では、札幌、東京、北京における活動について報告が行われ、今後の同窓会の組織化をさらに高めていく方策について話し合われました。続く懇親会は修了生、教員、在學生や本学院のOB教員で賑わい、盛会のうちに終了しました。



木村氏による講演会



許氏による講演会



懇親会の様子

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科

保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）

9月30日（土）13:30～16:10 保健科学研究院多目的室（E棟1階） 参加者66名

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科では、保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）と題し、本研究院の各分野から、最近の教育研究の諸活動などについて近況の報告及び卒業生の方々に講師としてお迎えし、これまでの歩み、現在の活動状況などをお話ししていただきました。

齋藤 健研究院長からの開催の挨拶に始まり、分野紹介では、各分野から構成等及び最近の教育研究について紹介が行われました。講演会では、西川 拓志氏（石川県立高松病院作業療法科・主幹）に、「障がい者スポーツに魅せられて“SPORT THAT MOVES

OT...”と題し、作業療法士は、障がい者スポーツを「作業」として捉えることから、生涯にわたってサポートできることを含め、新たな作業療法の可能性についてお話しいただきました。続いて、藤本和則氏（北海道大学医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会副会長）に、「保健学科・医短同窓会設立準備委員会から現在までの同窓会に携わってきた経験を踏まえ、医療短大・保健学科の30年の歴史を振り返りながら、同窓会の歩みについてお話しいただきました。また、講演後には、活発な質疑応答が行われるなど大変好評でした。

引き続き、今回からの新たな取り組みとして、同窓会による総会、次いで、懇親会が開催され、多くの同窓生が出席し、和やかな歓談のひと時を過ごし、世代を超えての交流を深め、盛会のうちに終了しました。



開会の挨拶をする齋藤研究院長



分野紹介の様子



西川氏による講演



藤本氏による講演

工学院・工学研究院・工学部

工学系イノベーションフォーラム2017，北工会サークル展示，土木工学研究棟内覧ツアー，同窓生向け講演会，同窓生との全体懇親会

工学系イノベーションフォーラム2017

9月29日（金）13:30～17:00 工学部フロンティア応用科学研究棟1階ロビー・2階鈴木章ホール（レクチャーホール） 参加者107名

本フォーラムは、工学研究院における地域連携や社会連携に向けた研究を支援することを目的とした工学系連携推進企画部と、工学部情報エレクトロニクス学科及び情報科学研究科の同窓会である北楡会の共催事業として実施しました。

開会の挨拶の後、ポスター発表の部として、1階ロビーで工学研究院及び情報科学研究科の最近の代表的研究成

果について、36課題のポスター発表を実施しました。

引き続き、講演の部としてイノベーションに関連した講演を鈴木章ホールで2題実施しました。

最初に、藤本 潔井関農機株式会社顧問から「オープンイノベーション時代の農工連携～裾野の広い施設園芸～」について発表が行われました。

続いて、梅田成視日本無線株式会社



ポスター発表の様子

研究所副所長から「社会／産業のスマート化に向けた無線／電波の活用」について発表が行われました。

なお、ポスター発表のうち21課題については、工学系連携推進企画部ホームページで工学系研究者シーズ集Vol.15として公開していますので、ぜひご覧ください。

◆ <http://labs.eng.hokudai.ac.jp/office/elo/jp/seeds/>



講演する藤本氏



講演する梅田氏

北工会サークル展示

9月30日（土）9:00～17:00 工学部正面玄関ホール

工学部正面玄関において、北工会（工学部の教職員・学生等の親睦団体）の公認サークルによる作品（書道、写真）を展示し、ホームカミングデー来場者のほか、在学生や外部からの来訪者の方々も、足を止めて作品に見入っていました。



展示の様子

土木工学研究棟内覧ツアー

9月30日（土）14:00～15:00 工学部土木工学研究棟 参加者102名

本年7月に完成した土木工学研究棟において、同研究棟の施設などを紹介する内覧ツアーを実施しました。

本ツアーは、渡部靖憲工学研究院准教授の案内のもと実施されました。施設説明の際は、参加者から活発に

質問が行われるなど、同研究棟に興味津々といった様子で、数多くの実験設備を大変興味深く見学していました。



実験設備を見学する参加者



キャットウォークから実験設備を見学する参加者



施設説明を行う渡部准教授

同窓生向け講演会

9月30日(土) 15:00~17:00 工学部オープンホール 参加者35名

工学部オープンホールにおいて、工学部同窓生向けの講演会を行いました。

はじめに、増田隆夫工学研究院長・工学部長が歓迎の挨拶を述べた後、工学部創立100周年を7年後に迎えることを含め、工学研究院及び工学部の現況報告を行いました。

引き続き、但野 茂独立行政法人国立高等専門学校機構理事兼函館工業高

等専門学校長から「もう一つの高等教育機関-進化する高専-」と題し、高等専門学校の現状と、今進められている新たな将来構想についての講演が行われました。

続いて、船水尚行農学研究院・国際食資源学院特任教授兼大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授から「サニテーション分野のSGDs* 達成に向けて-Post

Modern サニテーションの提案-」と題し、水とサニテーションに関する現状、次世代のサニテーションの提案等についての講演が行われ、盛会のうちに終了しました。

*SDGs (Sustainable Development Goals) : 持続可能な開発目標



講演する但野氏



講演する船水特任教授

同窓生との全体懇親会

9月30日(土) 17:00~18:15 工学部食堂 参加者43名

工学部食堂において、工学部の同窓生をお迎えし、全体懇親会を開催しました。

懇親会の冒頭では、近久武美工学部

同窓会理事長からご挨拶いただき、引き続き、小林幸徳工学院院长からの乾杯の後、歓談に移りました。

同窓生同士の親睦を深めるとともに

同窓生と現役教員の交流など、短い時間ではありましたが、和やかな雰囲気の中、盛会のうちに終了しました。



挨拶する近久工学部同窓会理事長



乾杯する小林工学院院长



会場の様子

医学院・医学研究院・医学部

北海道大学医学部フラテ祭2017

9月30日(土) 13:30~19:00 医学部学友会館「フラテ」 参加者89名

医学部では、「北海道大学医学部フラテ祭2017」を開催しました。

第1部の施設・キャンパスツアーでは、教育助教がツアーコンダクターと

なり、ご案内しました。施設巡りでは北海道大学病院陽子線治療センター・遺伝子病制御研究所・医学研究院死因究明教育研究センター・組織病理学実

習室を見学し、参加者は大変興味深そうに説明に耳を傾けていました。また、キャンパス巡りでは名所の解説を聞きながらバスで大学構内を巡り、ポ

プラ並木・クラーク像・総合博物館で途中下車をして楽しんでいただきました。

第2部の講演会では、吉岡充弘医学部長、秋田弘俊北海道大学病院副病院長、齋藤和雄名誉教授が講演を行いました。齋藤名誉教授には「北大医学部の過去・現在・未来—創立100周年を迎えるにあたって—」と題した特別講

演をしていただきました。講演会終了後は音羽博次奨学基金授与式が行われ、12名の学生に奨学金が授与されました。

第3部の交歓会では、医学部公認団体アンサンブル・フラテによる「学友会歌」「都ぞ弥生」が披露された後、浅香正博同窓会会長のご挨拶・乾杯により開宴されました。学生による弦楽

四重奏の演奏の中、同窓生・学生親族・医学部生・教員が一堂に会し、和やかな歓談のひと時を過ごしながら交流を深めることができました。半ばには医学部生による活動紹介が行われ、最後に参加者と「都ぞ弥生」を合唱し、盛会の中フラテ祭を終えることができました。



第1部ツアー：医学部施設巡りの様子



第2部講演会：齋藤名誉教授の講演



第3部交歓会：交歓会の様子（都ぞ弥生斉唱）

獣医学院・獣医学研究院・獣医学部

獣医学部同窓会平成29年度通常総会，新評議員会・新理事会，フォーラム・交流会，懇親会

9月30日（土）13:00～19:00 獣医学部講義棟会議室・講堂 参加者41名

獣医学部同窓会通常総会及びフォーラム・交流会を開催しました。

通常総会では、37名の同窓生にご参加いただき、平成28年度事業報告・決算の承認や平成29年度事業計画・収支予算案など、計5号の議案が審議・承認されました。その後、34名の同窓生及び学生が参加して開催したフォーラム・交流会では、今年度は獣医学部の教育が大きな節目を迎える年であるため「北海道大学における獣医学教育に関する学生からの報告」と題して獣医学教育の動向について報告し、同窓生との意見交換を行いました。

まず、今年度初めて卒業生を送り出

す帯広畜産大学との共同獣医学課程について、同課程1期生（北大生、畜大生各1名）より報告しました。次に、最終年度を迎える「大学の世界展開力強化事業（日本とタイの獣医学教育連携：アジアの健全な発展のために）」について、昨年度のプログラムに参加した学生から紹介がありました。最後に、大学院教育改革を進めてきたリーディングプログラムも最終年度を迎えていることから、本プログラム修了生と在学生各1名から同プログラムについて報告しました。また、それぞれのトピックについて教員からの総括と今後の展開に向けた準備状況が紹介され

ました。参加した同窓生からは、母校の獣医学教育の充実に向けた取り組みへの評価と、さらなる充実に向けた期待の言葉が寄せられました。



記念写真

北方生物圏フィールド科学センター

「生物生産研究農場」ミニツアー、植物園の見学

9月30日(土) ミニツアー ①14:30~15:00 ②15:30~16:00 植物園 9:00~16:00

生物生産研究農場、植物園 参加者54名

北方生物圏フィールド科学センターでは、耕地圏ステーション生物生産研究農場のミニツアー及び植物園見学を実施しました。

「生物生産研究農場」ミニツアーにおいては、14名の参加者があり、屋上

から農場の景色を眺めた後、ポプラ並木、放牧地、水田及びススキ試験圃場で山田敏彦農場長が説明を行いました。参加者からは、身近に作物や家畜に触れられ、好評でした。

また、植物園見学においては、幅広

い年代にわたる本学卒業生等40名が本企画を機会として道内外から来園し、園内の各箇所を懐かしそうに見学していました。



「生物生産研究農場」ミニツアー



「植物園の見学」の来園者

総合博物館

学生による展示解説、新設した常設展示室「鉱物・岩石標本の世界」の展示案内

展示解説 9月30日(土) 10:30~14:30 (計5回、各回20分) 博物館内各展示室 参加者70名

展示案内 9月30日(土) 13:00~13:30, 10月1日(日) 16:00~16:30

秋晴れに恵まれた本年のホームカミングデーに総合博物館では2種類のイベントを開催しました。

総合博物館を舞台に活動するミュージアムクラブMouseionは、「文学部らしくない?文学部の研究」「ボーダーツーリズムってなに?~新しい国境の捉え方~」「北大昆虫研究の歴史と今」「電波望遠鏡を用いた宇宙観測」「時代のタイムカプセル 新聞紙の世界&博物館ボランティア活動の一端紹介」という各自で作成したオリジナルの解説で来館者の方を迎えました。緊張しながらも一生懸命解説する姿に、

来館者からは温かい励ましのお言葉をいただき、理学部出身の方は、もともと理学部の校舎だった博物館の建物を懐かしみ、当時の思い出や知られざる情報を教えてくださったりと、ホーム

カミングデーならではの交流ができました。

また、鉱物・岩石標本に関する新たな常設展示室「鉱物・岩石標本の世界」を新設したことを記念した特別企



学生による展示解説



画「惑星地球の時空間」を8月4日（金）から開催しており、その展示解説を9月30日（土）・10月1日（日）に各1回実施しました。初回は20名ほどの参加者を迎え、13時から30分間程度で解説を終えましたが、その後、参加された方々から大変多くの質問をい

ただいたため、他の来館者を巻き込んで15時過ぎまで続くにぎやかなイベントになりました。2回目も20名ほどの参加者を迎え、16時から開始しましたが、初回と同様、大変多くの質問があり、閉館時間である17時を越えても終わらないほどの状況でした。



「惑星地球の時空間」担当教員による解説

大学文書館

特別展示「半澤洵教授の納豆普及大作戦!」、企画展示「佐藤昌介—北大の牽引者」、常設展示「北大生の群像」「札幌農学校遊戯会」「新渡戸稲造と遠友夜学校」

9月30日（土）9:30~16:30、10月1日（日）9:30~16:30 大学文書館1階閲覧室・沿革展示室・展示ホール 参加者54名

大学文書館では、特別展示「半澤洵教授の納豆普及大作戦!」（会場：閲覧室）と、企画展示「佐藤昌介—北大の牽引者」（会場：沿革展示室）と、常設展示「北大生の群像」「札幌農学校遊戯会」「新渡戸稲造と遠友夜学校」（会場：展示ホール）を、9月30日（土）・10月1日（日）にわたり公開しました。

2日間限定で閲覧室において特別陳列した資料は、純粋培養した納豆菌と

衛生的な容器を使用して製造した納豆“半澤式納豆”にまつわる様々な資料です。例えば、半澤洵教授（札幌農学校1901年卒業）の筆による「納豆菌」広告のデザイン案（1919年）、全国各地の納豆業者による“半澤式納豆”の包み紙（納豆ラベル），“半澤式納豆”を奨励した放送・雑誌原稿類、宣伝歌「納豆の歌」のちらしなどです。両日あわせて、同窓生やその家族の皆様が見学されました。



特別展示会場

公認学生団体（学務部学生支援課）

北海道大学写真部 ホームカミングデー展，北海道大学陸上競技部 陸上競技部OB交歓会

北海道大学写真部 ホームカミングデー展

9月30日（土）10:00～18:00 クラーク会館3階展示場 参加者50名

公認学生団体写真部が、写真展を開催し作品を披露しました。訪れた卒業生などの皆様は、部員それぞれが独自の視点で撮影した作品に興味深くご覧になっていました。



写真部

北海道大学陸上競技部 陸上競技部OB交歓会

9月30日（土）9:00～14:00 陸上競技場 参加者75名

公認学生団体陸上競技部により、前日降った雨も当日とところどころ降った雨の影響もなく、爽やかな秋空の下、陸上競技場にて、現役とOBOGの方々との白熱した競技会が繰り広げられました。



陸上競技部

競技会終了後は工学部に移動し、ジンパにより、楽しい一時を共有し、親睦をさらに深めました。

北大キャンパスビジットプロジェクト

キャンパスツアー —現役北大生とめぐるキャンパス今昔—

9月30日（土）13:00～14:30 札幌キャンパス構内 参加者5名

全体行事の会場となったクラーク会館を出発し、参加者の出身学部に応じてコースを分けて札幌キャンパス構内を順次巡り、高等教育推進機構を最終到達地点としたツアーを実施しました。

ツアー中は、スタッフである現役学生がコース中にある各学部の現在の様子などを紹介し、参加者から本学で学ばれていた当時の話を伺うという形で進行しました。

参加者からは本学で学ばれていた当時の思い出を懐かしむ声があがる一

方で構内の新しい建物への質問などがあり、スタッフである現役の学生がそれに答えながら参加者の在学当時の様子について詳しく聞く場面があるな



現役生と同窓生がキャンパスを散策する様子

ど、現役の学生と同窓生の方が交流を深める貴重な機会となりました。

ツアー終了後には、参加者の方から「いろいろとおもしろいエピソードが



今のキャンパスを紹介する北大生

聞けました」「おふくろと同郷の方で好感をもちました」「友人と2人で来ました。久しぶりで懐かしかったです」などの感想が寄せられました。

北大キャンパスビジットプロジェクトでは、年に数回、一般市民向けのキャンパスツアーを行っており、今秋

にもキャンパスツアーを実施する予定です。今回、ご参加いただいた方々から伺うことができた過去の様子なども参考にし、これからのキャンパスツアーをより良いものにしていきたいと思えます。



キャンパスの今昔について語り合う様子

創成研究機構

第15回創成シンポジウム「大地に眠る物語を読む 考古学者と人形劇師」

9月30日(土) 16:00~18:00 学術交流会館講堂 参加者202名

第15回創成シンポジウム「大地に眠る物語を読む 考古学者と人形劇師」を、「TERRACE-科学とアートが出会う場所-」, ホームカミングデーの一環として、アイヌ・先住民研究センターの共催、札幌国際芸術祭実行委員会との連携で開催しました。

15回目となる今回は、「科学とアート」をテーマとし、科学者とアーティストがそれぞれの視点から語り合いました。

オープニングでは、さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座による人形劇が行われ、会場全体がその独特な世界観に圧倒されました。西井準治創成研究機構機構長による開催挨拶の後、創成研究

機構の岡田真弓特任助教、アイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授よりオホーツク文化、アイヌ文化について最新の研究結果を交えて講演がありました。

最後に人形劇師・演出家の沢 則行氏より「遺跡から生まれた人形劇『OKHOTSK-終わりの楽園-』」と題し、人形劇を交えながら、どのようにオホーツクという演目が作られていったのかなどのお話がありました。

講演の後には、演出家の沢氏と研究者である加藤教授が「考古学とアートでつくる北海道の新たな文化」と題してトークセッションを行いました。パネリストはユーモア溢れる活発な議論を

展開し、会場全体が笑いに包まれる場もありました。

当日は一般市民を中心に202名の参加者があり、市民の関心の高さがうかがえました。



あしり座による人形劇



人形を操る沢氏



講演者の3名



トークセッションの様子

北海道大学校友会エルム

OB講演会・在学生等との懇談会、保護者会員懇談会・キャンパスツアー

OB講演会・在学生等との懇談会

9月29日（金）16:30~19:00 百年記念会館大会議室 参加者72名

9月29日（金）に百年記念会館大会議室において、「OB講演会」「卒業生と在学生等との懇談会」を開催しました。

今回の事業は、今年4月に北海道大学に入学し、新たに校友会エルムに加入した会員からの要望として、「企業の第一線で活躍されたOBの講演や卒業生と懇談できる機会が欲しい」との要望に応じて企画したものです。

OB講演会では、本学工学部を卒業

後、総合商社において、主に海外のエネルギー開発プロジェクトを担当され、世界各地で高い実績を挙げられた、新渡戸カレッジの井上修平フェローにご講演いただきました。

講演では、同フェローが厳しい競争を勝ち抜いてこられた経験に基づき、「社会が求める人材像」や「未来へ」向かって進むために必要なことなど熱く語っていただき、開催趣旨に沿った

内容となりました。

また、終了後の懇談会においては、幅広い年代層の卒業生にも参加いただき、企業等における実際の業務の様子など、活発な懇談が行われ、参加された在学生からも有意義な機会だったとの声が寄せられました。

当日、参加いただいた卒業生のほか、連絡調整いただいた各基礎同窓会の皆様にも厚く御礼申し上げます。



OB講演会の様子



在学生等との懇談会

保護者会員懇談会・キャンパスツアー

9月30日（土）12:00~17:00 百年記念会館北大マルシェ・札幌キャンパス全体 参加者14名

9月30日（土）に校友会エルム保護者会員を対象に「懇談会及びキャンパスツアー」を実施しました。

懇談会では、保護者会員に対して、校友会エルム設立の趣旨や今後、校友会エルムが実施する事業等の説明を行った後、百年記念会館1Fに仮オープンした「北大マルシェ Cafe&labo」において、校友会エルムの役員も交え、「北海道大学牛乳」、出来たてのモッツアレラチーズと北大農場の採れたてトマトを使った「カプレーゼ」に続き、お好みのメイン料理を堪能しな

がら懇談いただきました。

参加した皆様からは、「デザート」「北大牛乳を使ったプリン」まで、全ておいしかったとの評価をいただき、今後の同レストランの運営にも弾みがつく結果となりました。

引き続き、借上げバスによるキャンパスツアーを行い、最初に行った植物園では、加藤 克助教による詳細な説明の他、普段一般展示されていない所蔵庫等も特別に開放していただきました。その後、北キャンパスや平成ポプラ並木等を見学いただき、最後に総

合博物館では、膨大な展示等の資料が無料で公開されていることや、フロンティア基金に対する多くの方からの支援の状況等をご覧いただきました。

参加者の皆様からは、校友会エルムの活動と北大をより知ることができ、保護者としても可能な範囲で支援を行っていききたい、との意見も寄せられ、保護者会員の皆様及び校友会エルムの双方にとって大変有意義なイベントとなりました。



保護者会員との懇談会の様子



「北大マルシェ Cafe&labo」での昼食会



キャンパスツアーの様子（平成ポプラ並木）

ほっかいどう同窓会

ランチパーティ

9月30日(土) 12:00~13:30 百年記念会館大会議室 参加者98名

ほっかいどう同窓会では、北海道大学校友会エルムと共催で百年記念会館大会議室においてランチパーティを開催しました。

三上 隆ほっかいどう同窓会会長の開会挨拶、名和豊春総長からの祝辞の後、近藤龍夫前ほっかいどう同窓会会長による乾杯でパーティーは始まりました。今年もジンギスカン、ザンギ、

トウモロコシ等の道産食材に舌鼓を打ちながら、出席者の話が弾みました。

またパーティの途中には、関西同窓会、恵迪寮同窓会、東京同窓会関係者から挨拶があり、同窓生の交流の場として大いに盛り上がりました。

石山 喬校友会エルム会長の中締め挨拶の後、参加者は次の予定に合わせて散会となりました。



パーティー風景

恵迪寮同窓会

文化講演と寮歌の集い

9月30日(土) 14:30~18:00 クラーク会館大集会室 参加者110名

本行事は、札幌農学校・北海道帝国大学から続く恵迪寮精神の伝統を守り、恵迪寮歌を歌い継ごうと、第2回のホームカミングデーから開催しています。今回は、第1部「文化講演」で七戸長生名誉教授(元農学部長)が「学生寮に期待するもの」とのテーマで講演されました。

恵迪寮時代、最後の予科を経験された七戸先生は、寮史を熟読する中で、「寄宿舍規則は、Be Gentleman!のみで十分」というクラーク博士の名言や、明治36年の寄宿舍舎則の「純朴ノ風ヲ存シ、剛毅ノ徳ヲ養フベシ」などの行

動規範を通して、北大特有の気風が生まれてきたと解説されました。また、独自に「代表的恵迪寮生列伝」を制作されており、アルゼンチンに移住して大型牧場の経営を築いた伊藤清蔵(明治29年入寮)や植物遺伝学の先駆者である坂村 徹(同40年)、「都ぞ弥生」の横山芳介(同43年)らはいずれも寮時代に学んだ体験から社会貢献や世界的な業績を残したと解説され、学生寮の存在がいかに大切であったかを話されました。

第2部の寮歌の集いでは、関東や関西からの同窓生をはじめ、友好関係に

ある小樽商科大学の輝光寮生と応援団関係者や恵迪寮生ら合わせて100人を超す寮歌愛好者が参加しました。「都ぞ弥生」を全員で斉唱した後、入寮年代別に明治・大正・昭和・平成の名寮歌や校歌10数曲を放歌高唱しました。また、寮歌の国際的普及を目指して制作した英語・中国語・スワヒリ語の外国語版「都ぞ弥生」も披露しました。

最後に全員で肩を組んで「別離の歌」(昭和6年寮歌)を斉唱し、来年も元気で再会することを誓って閉会しました。



恵迪寮生の経験を基に学生寮の在り方を説く七戸先生



恵迪寮時代を懐かしみながら寮歌を高唱



小樽商科大学応援団(右側)と共に寮歌を高唱する恵迪寮OB

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報 基金累計額 （9月30日現在）	/ 21,294件 4,230,930,264円
---	--------------------------

9月のご寄附状況

法人等21社、個人167名の方々から12,221,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

なお、基金累計額には、北海道大学電子科学研究所の寄附金より移し替えた400,000円を含んでおります。

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アイワード、イボクラールピバデント株式会社、社会医療法人 延山会、医療法人社団 おかもと矯正歯科クリニック、医療法人社団 尾谷病院、株式会社クレストコンサルティング、社会医療法人友愛会 恵愛病院、株式会社札幌デンタル・ラボラトリー、一般社団法人 3S社会安全国際研究所、サンメディカル株式会社、株式会社松風、株式会社ツルハ、日本アイ・エス・ケイ株式会社、株式会社北洋銀行 北七条支店、北海電気工事株式会社、北海道大学生生活協同組合、公益財団法人 北海道対がん協会、医療法人社団萌生舎 宮の沢腎泌尿器科クリニック、株式会社ムトウ、株式会社ヨシダ 北海道営業所

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	安宅 克彦	飯田順一郎	飯塚 正	池田 考績	石井紀恵子	石川 誠
石坂 明人	石田 恵	石橋 義永	石渡 寿夫	石渡由美子	伊藤 英樹	入澤 秀次	上田 諭
梅本 芳夫	榎本 卓史	大井 一浩	大島 昇平	太田 守	大西 裕之	大野 重昭	大廣 洋一
岡本 茂樹	岡本 淑香	奥 貴博	小内 透	小原 大和	埴山 雅秀	加藤 昭人	加藤 久尚
金川 眞行	金子 知生	亀貝 一義	亀倉 更人	川崎 和宏	河本 充司	菅野 盛夫	岸部 繁俊
北村 愛	桐谷 慎一	倉本ノブ子	栗林 道夫	小島 和人	小松 秀樹	小松原浩実	小宮 徳春
近藤 幸康	近藤美弥子	斉藤 久	斉藤比登志	斉藤 文男	榊原 宜正	佐々木俊夫	佐藤 浩二
佐藤 千晴	三升畑元基	柴田健一郎	城畑 孝康	進藤 正信	鈴木 邦明	鈴木さち代	鈴木 正司
鈴木里津子	瀬名波栄潤	善徳 信幸	園部 昌治	高師 則行	高道 理	高山 幸一	竹中 靖彦
田中 和裕	田中 秀文	田村 正人	塚田 東香	塚田 正興	辻井 正久	土家 琢磨	寺澤 睦
道念 正樹	所 哲也	栃原 義之	富田 初	豊田 威信	永井 典久	中川 英二	中谷 晴昭
中枝 和憲	中塚 愛	中村 光一	長屋 良行	新田 幸絵	野々村克也	長谷 由理	長谷川智香
長谷部 晃	浜口 好幸	早川 智	林 利彦	原田 猛	疋田 一洋	樋口 俊幸	広瀬 雅哉
藤澤 俊明	藤森 幹夫	船橋 誠	細井 康雄	細川 直子	堀内 留美	本間 裕二	松浦 清
松本 啓	南川 元	宮腰 昌明	宮治 裕史	宮村 里歩	村上 公克	村田 勝	森田 航
柳澤 宏康	柳谷 憲治	山口 淳二	山下 篤子	山西 晴子	吉沢 正道	吉田 広志	吉田 有希
吉原 俊博	渡邊 裕司						

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)**(法人等)**

医療法人社団 尾谷病院, 株式会社クレストコンサルティング, 社会医療法人友愛会 恵愛病院,
 一般社団法人 3S社会安全国際研究所, 医療法人社団萌生舎 宮の沢腎泌尿器科クリニック,
 公益財団法人 北海道対がん協会, 株式会社ムトウ

(個人)

大野 重昭, 佐々木俊夫, 永井 典久, 山口 淳二, 渡邊 裕司

感謝状の贈呈

山下 勇 様 (平成29年9月28日)

ご寄附のお申し込み方法**① 給与からの引き落とし**

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

**② 郵便局または銀行への振り込み**

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

平成29年度北海道大学インターンシップを実施

本学学生を対象としたインターンシップを9月4日（月）～8日（金）の5日間（附属図書館は4日（月）～12日（火）の7日間、学務部キャリア支援課は4日（月）～15日（金）の10日間）の日程で、実施しました。

本インターンシップは、特に近年、社会的にインターンシップへの参加希望者が増加していること、本学卒業生に係る進路状況においても就職先として本学が高い順位を示していること等を踏まえ、学生に就業体験の機会を与えることにより、職業意識の育成・向

上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施しています。

今年度は8部局で、9名の学生を受け入れました（別表参照）。

初日は実習生全員を対象として、インターンシップ開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各実施部局担当者から「組織運営」「財務」「学務」「施設」「図書」の5つのテーマに基づき、本学の概要が説明されました。

実習生の中には、初めての就業体験に緊張や戸惑いを見せる学生もいまし

たが、担当職員から業務の説明を受けると真剣に聞き入り、積極的に業務に取り組んでいました。実習生からの実習報告では「ほぼ毎日通っていても知ることのなかった北大の新しい面を知ることができた」「目立たない業務でも意味があるということが改めて分かった」「ホームページに載っていた情報以上に多くの幅広い仕事内容であると感じた」などの感想が寄せられました。

（総務企画部人事課）



大学文書館にて職員の説明を受ける様子



職員の指導の下での就業体験の様子

受入部局	受入開始日～終了日 【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	9月4日（月）～8日（金）【5日】	水産学部	1年
財務部	9月4日（月）～8日（金）【5日】	経済学院	修士1年
学務部	学務企画課	9月4日（月）～8日（金）【5日】	法学部 3年
	教育推進課	9月4日（月）～8日（金）【5日】	水産学部 3年
	学生支援課	9月4日（月）～8日（金）【5日】	文学部 3年
	キャリア支援課	9月4日（月）～15日（金）【10日】 （土日を除く）	経済学部
薬学部			3年
施設部	9月4日（月）～8日（金）【5日】	工学部	3年
附属図書館	9月4日（月）～12日（火）【7日】 （土日を除く）	文学部	3年

名和総長が東方経済フォーラム及び日露学生フォーラムに参加



日露学生フォーラム参加者との記念撮影

9月5日（火）～7日（木）、ロシア連邦ウラジオストク市にて開催された第3回東方経済フォーラム及び日露学生フォーラムに、名和豊春総長が出席しました。

東方経済フォーラムはロシア極東地域における海外投資の促進、国際ビジネスの活性化等を目的としたフォーラムで、毎年、本学の協定校である極東連邦大学を会場として実施されています。本フォーラムには日露両国の首脳をはじめ、世界各国から政府・経済及び教育関係者が集まりました。

名和総長は、5日（火）・6日（水）に本フォーラムの一環として実施された「The 6th APEC Conference on Cooperation in Higher Education（第6回APEC国際教育会議）」の第2セッション「Developing APEC Education

Strategy（APEC教育戦略の発展）」に、パネリストとして参加しました。発表では、本学の教育・研究や今後のロシアとの交流計画等について紹介し、関係者と今後の日露交流や教育について活発な意見交換を行いました。また、日露ラウンドテーブルや安倍晋三首相の懇談会にも出席し、今後の日露交流について意見を交わしました。

日露学生フォーラムは、4日（月）・5日（火）に同じく極東連邦大学を会場として、東方経済フォーラムと並行する形で実施されました。本学生フォーラムは、日露の若い世代が議論し相互理解を深め、両国の未来に向けた提案を行うことを目的として開催されたもので、日本の12大学から16名、ロシアの2大学から8名の学生が参加しました。学生は4日（月）にそれぞれ

の専門分野を軸に議論を交わした後、5日（火）のプレナリーセッションにて、日露関係の未来に向けての提案を「日露学生フォーラム提言」にまとめ、発表しました。6日（水）には参加学生が安倍首相を表敬訪問し、同提言を手交しました。安倍首相からは、今後の日露関係における若い世代への期待のお言葉をいただきました。

名和総長は学生フォーラムプレナリーセッションに出席し、学生からの提言について、ユーモアを交えて激励のコメントを送りました。また、安倍首相表敬訪問にも同席し、学生たちが日露交流についての思いを話す様子を温かく見守りました。

（国際部国際連携課）



APEC国際教育会議でのプレゼンテーション



日露学生フォーラムプレナリーセッションでの講評



学生による安倍首相表敬訪問
（首相官邸ホームページhttp://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/actions/201709/06eef.htmlの掲載写真を加工）

コチュテル・プログラムに本学学生が初めて参加

平成28年から国際連携機構（旧国際本部）の支援により、農学院が進めてきたフィリピン大学とのコチュテル・プログラムについて、8月10日（木）にプログラム覚書及び同意書（学生ごとの覚書）が締結され、今回、本学からのコチュテル・プログラム参加第1号となるフィリピン大学への学生派遣が決定しました。当該学生は、フィリピン大学に在籍して、隣接する国際稲研究所の施設を利用しながら、フィリピン大学教員から研究指導を受ける予定です。

コチュテル・プログラムとは、博士後期課程における共同研究指導のプログラムであり、参加学生は1年以上連携大学に滞在し、本学の指導教員と協力関係にある、連携大学の教員が指導を行います。プログラムを修了した際には、「博士課程修了に必要な研究指導は〇〇大学（連携大学名）と共同で実施したものである」旨付記された学

位記が、参加学生の本籍大学から授与されます。このプログラムを通じて、本学で行うことの難しい研究指導、実験等を連携大学で行うことができ、日本とフィリピンそれぞれにおいて特化した研究を連携して進めることが可能となります。

農学院と国際稲研究所の関係は長く、国際稲研究所の創設時から教員及び学生が交流を続けてきています。農学院の貴島祐治教授と共同で研究指導を行うフィリピン大学のIL RYONG CHOI教授はイネツングロ病の専門家であり、熱帯での研究及び実験を行うためには、大規模な接種試験場を持ち、イネツングロ病の最先端研究を行う国際稲研究所は最適な研究場所ということで、学生の渡航が今回決定しました。この共同研究指導を通じて両者の関係が更に深まり、将来的に共著論文の作成に繋がることが期待されます。

参加学生は博士後期課程の在籍期間中に、約1年間フィリピンで研究を行う予定です。

（国際部国際連携課）



国際稲研究所を訪問



コチュテル参加学生（右側）

アディスアベバ大学で「日本留学フェア」を開催

本学ルサカオフィスでは、9月20日（水）、エチオピア連邦民主共和国においてアディスアベバ大学との共催で「日本留学フェア」を開催しました。本フェアは、サハラ以南アフリカ地域の学生の日本留学を促進することを目的に、本学が文部科学省から受託している「留学コーディネーター配置事業」の一環として実施されたものです。

エチオピアは古くから親日国として知られ、アフリカ連合本部の設置や高い経済成長率など、域内での政治的、経済的な重要性が増しています。また、近年の初等・中等教育における就学状況の改善は、高等教育進学への志向を高めています。以上を背景に、本フェアは、在エチオピア日本国大使館の後援、日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センター、国際協力機構（JICA）エチオピア事務所の協力のもと実現しました。

本フェアには、日本からは文部科学省のほか、本学の募集に応え、日本学生支援機構（JASSO）、宇都宮大学、京都大学、国際大学、芝浦工業大学、東京外国語大学、東京農業大学が参加しました。本学からは笠原正典理事・副学長、島竜一郎国際部長、奥村正裕獣医学研究院教授、ルサカオフィスから留学コーディネーターの中村 聡特任講師と成澤徳子特任助教、大門 碧特定専門職員をはじめ8名の教職員が参加しました。会場となったアディスアベバ大学ラス・メコネンホールは、エチオピア帝国最後の皇帝ハイレ・セラシエが寄贈した元宮殿内にあり、厳かな雰囲気の中で会が進められました。

両国大学間の学術交流の可能性を探るワークショップには、両国及び周辺国から大学の教職員を中心に約100名が集いました。まず、溝口大助JSPSナイロビ研究連絡センター長から日本

の研究支援プログラムの概略が説明され、同プログラム参加者の体験談が披露されました。次に、アディスアベバ大学のデメケ・アチソ国際交流部長から、エチオピアでの学術・研究面での国際交流の現状と今後の展開、期待について講演いただきました。続いて、参加者全員が自身の研究や関心について紹介を行い、その後の昼食時間を利用して活発に交流が行われました。

留学説明会では、笠原理事・副学長による開会挨拶の後、来賓の齋田伸一駐エチオピア日本国特命全権大使から祝辞をいただきました。続いて、文部科学省留学生交流室の足立 陸主任から、日本における大学の国際化戦略と日本留学振興事業について、JASSOの渡辺 明事業戦略係長から日本留学の概要について説明がありました。その後、アディスアベバ大学のメンゲシャ・マモ・ワガリ准教授から日本留

学中の体験が紹介され、最後に参加大学が各校の特色や留学制度について発表しました。説明会後には参加大学と関係機関による個別相談の時間を設けたほか、資料参加計20大学*の案内資料を配布しました。本説明会は、学生を中心に約300名が参加する盛況な会となり、また、閉会間際まで来場者が絶えず、同国での日本留学への関心の高さがうかがえました。

9月21日(木)には、国内有数の優秀な高校で卒業生の約90%が海外へ留

学するサンドフォード・インターナショナル・スクールを訪問し、約50名の高校生に対し日本留学説明会を行いました。説明会後には進学担当教員と意見交換を行い、両国における入学資格の取り扱い等や、日本への学生招致に向け、活発に議論がなされました。

ルサカオフィスでは今後も、教育機関、行政、援助機関や企業等との連携を拡大し、日本-アフリカ間の学術・学生交流を促進する活動を実施していきます。

◆ <https://www.hokkaido-university-lusakaoffice-zm.com/news-and-events/>

*小樽商科大学、お茶の水女子大学、帯広畜産大学、関西大学、九州大学、九州工業大学、首都大学東京、上智大学、信州大学、筑波大学、東京大学、東京海洋大学、東京国際大学、同志社大学(ビジネス研究科グローバル経営研究専攻)、東北大学(大学院医工学研究科)、豊橋技術科学大学、長崎大学、横浜国立大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学

(国際部国際連携課)



アディスアババ大学ラス・メコネンホール



笠原理事・副学長による開会挨拶



熱心な参加者たち

外国人留学生在鹿追町で小学生と農業体験を実施



全員で記念撮影

9月16日(土)、十勝の鹿追町にある村瀬ファームにおいて、国際連携機構主催で地元小学生と外国人留学生在が農業体験を実施しました。

この行事は、農作物の収穫体験を通じて小学生と留学生の交流を図るもので、公益財団法人中島記念国際交流財団助成による平成29年度留学生地域交

流事業として採択されたものであり、協力校として帯広畜産大学の外国人留学生在も参加しました。

当日参加した留学生在は、スリランカ、バングラデシュ、フィリピン、トリニダード・トバゴ、ペルー、アンゴラ、エジプト、ザンビア、ナイジェリア、インドネシア、マラウイの12か

国・地域出身の13名で、地元小学校の1年生から6年生の児童35名が参加するとともに、新渡戸カレッジに所属する日本人学生がサポート役として4名参加しました。

じゃがいもの収穫作業にあたりファームの職員から説明を受けた後、グループに分かれて留学生在と小学生が協同で収穫作業を行いました。

その後、鹿追町の町民センターにおいて「いもち」を一緒に作る昼食交流会を行いました。食事が終了した後は、留学生在から提案のあった歌と踊りを練習し、参加者全員で踊るなど交流を深めていました。

(国際部国際教務課)



協同でじゃがいもを収穫



昼食交流会



一緒に踊って交流

Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行



出席者記念撮影

本年度より開始する外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program (ISP)」の入学式を9月25日(月)に理学部大講堂において行い、第1期生となる8名(6ヶ国)が学士課程に入学しました。

このプログラムは、国際社会で活躍できる人材の育成を目的として、学士課程では理学部(物理学科・化学科・生物科学科生物学専修分野)で実施されます。

入学式は、名和豊春総長、笠原正典理事・副学長、長谷川晃理事・副学

長、徳久治彦理事・事務局長、石森浩一郎理学部長及び理学部物理学科、化学科、生物科学科教員の列席の下、緊張の中にも和やかな雰囲気で行われました。

名和総長は、告辞の最後にウィリアム・S・クラーク博士の言葉を現代版に置き換えた「Girls and Boys, be Ambitious」の言葉を贈り、本学の学生として一歩を踏み出した新入生達を激励しました。続いて、新入生を代表してタイ出身のSuphakorn Suphapolthawornさんによる宣誓が行われ、最後は列席した教員も含めた全



総長告示



新入生宣誓

員で記念撮影が行われました。

入学式終了後は、同会場にて理学部主催の新入生ガイダンスが開催され、各学科の紹介を中心とした興味深い内容に新入生達は熱心に聞き入っていました。

(国際部国際教務課)

「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」 「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」 及び 「日本語研修コース」 入学式を挙行

本年10月入学の「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」 「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」 及び 「日本語研修コース」 の入学式を、10月2日 (月) にクラーク会館において行いました。

HUSTEPは、本学の協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施する1年または6か月間のプログラム、日研コースは、母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部 に在籍している留学生に対して日本語・日本文化・日本事情に関する

教育を行う1年または6か月間の研修コース、そして日本語研修コースは、大学院進学前の大使館推薦の国費留学生、工学部進学前の日韓理工系プログラムの留学生、及び現代日本学プログラム予備課程の留学生に対して開設されている6か月間の日本語予備教育を行う研修コースです。

今回入学したのはHUSTEPに74名、日研コースに53名、日本語研修コースに30名の合計157名です。

出席者の紹介が行われた後、各プログラム担当教員によるプログラム紹介

があり、学生は起立し、温かい拍手で迎えられました。その後、長谷川晃国際教育研究センター長からの祝辞、現代日本学プログラム予備課程のフルスティッチ セルゲイさんによる留学生代表スピーチが続き、フルスティッチさんは留学への意気込みや抱負について楽しく語りました。

最後は、学生たちの緊張もほぐれ、和やかな雰囲気の中、笑顔いっぱい集合写真の撮影を行いました。

(国際部国際教務課)



長谷川国際教育研究センター長による祝辞



北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP) 1年コース留学生



北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP) 半年コース留学生



日本語・日本文化研修コース (日研コース) 留学生



現代日本学プログラム留学生 (日本語研修コース)



国費留学生・日韓理工系プログラム留学生 (日本語研修コース)

若者政策コンテスト決勝大会で新渡戸スクール生が入賞

若者政策コンテスト決勝大会が9月7日（木）にニトリ文化ホールで開催され、新渡戸スクール生を中心としたチームクラークが入賞しました。

同コンテストは、札幌商工会議所主催の「パワーアップ！札幌フォーラム」の中で実施されたもので、「札幌の活力向上に向けた取り組み」のテーマで、応募総数40件の政策提案の中から一次審査（書類選考）、二次審査

（プレゼン審査）を通過した3チームが政策アイデアを発表しました。

チームクラークは新渡戸スクール上級プログラム生の齋藤萌美さん（医理工学院）、同基礎プログラム生の高橋みずきさん（経済学研究科）、針ヶ谷元基さん（農学院）、鈴木葉衣さん（公共政策学教育部）の4名からなり、さらに新渡戸スクールの今井匠太郎特任助教が参加しました。

コンテストでは「スマート農業実現に向けたプロジェクトチームの発足」について、約2,200人の聴衆を前に10分間のプレゼンテーションを行いました。審査の結果、優秀賞受賞を果たし、奨励金が授与されました。

（学務部教育推進課）



政策コンテスト決勝大会におけるプレゼンテーションの様子



参加者の記念撮影

新渡戸スクール修了式を挙行

平成29年度新渡戸スクール修了式を9月20日（水）に、高等教育推進機構にて執り行いました。

修了式は、本スクール基礎プログラム2期生で9月修了生の1名が出席し、新渡戸スクール校長代理から修了証書が授与されました。

長谷川晃校長代理は修了式の告辞の

中で、「近年、グローバル化の進展に伴い、個々の専門性を超えてチームで問題に立ち向かい、新たな社会的価値を生み出すことができる人材の必要性が高まっている」ことに触れ、修了生に対し、「新渡戸スクールにおける学びと経験をもとに、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となる

ことを願っております」との激励の言葉を贈りました。

最後に、長谷川校長代理、修了生、及び新渡戸スクール特任教員とで記念写真を撮影し、修了式は終了となりました。

（学務部教育推進課）



長谷川校長代理による告辞



修了証書授与



修了生を囲んでの記念写真

北海道大学が特色ある放射線安全管理の取り組みによって 第1回森川記念賞を受賞

この度、本学は「全学放射線安全管理および教育体制の強化と構築、とりわけ学内放射線施設に対する調査点検と優良施設の表彰、外国人を対象とした教育訓練とe-learning教育体制の構築、放射線管理システムを用いた全学安全管理の一元化」が大学等放射線施設協議会から特色ある放射線安全管理の取り組みとして認められ、栄えある第1回の森川記念賞（優良放射線事業者表彰）を受賞しました。

大学等放射線施設協議会は全国の国公私立大学等の放射性同位元素や放射線を使用する施設（団体会員）と安全管理に関わる教職員など（個人会員）

で構成され、放射線施設の安全を確保することを目的として設立されています。

表彰式は8月29日（火）に東京大学農学部弥生講堂一条ホールにて行わ

れ、代表として放射性同位元素等管理委員会委員長の稲波 修教授が表彰状を受け取り、記念講演を行いました。

（安全衛生本部）



表彰を受ける稲波放射性同位元素等管理委員会委員長



第1回森川記念賞表彰状

平成29年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催

化学物質を扱う際の経気道ばく露を防止して安全に実験を行うための装置として、本学でもドラフトチャンバー等の局所排気装置が多数の実験室に設置されています。これらの適切な維持管理のために、労働安全衛生法では1年を越えないごとの定期自主検査が義務付けられています。それらに関する知識・技能の習得を目的として「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催しました。今年度は、9月12日（火）から15日（金）に、理学部及び工学部の2会場で計4回実施し、計27人が受講しました。

本講習では、最初に安全衛生本部の

川上貴教教授による講義、続いて茨城大学工学部技術部の金澤浩明技術専門職員による室内及び室外での実技実習を行いました。なお、本学の講習内容では、厚生労働省の示す「局所排気装置の定期自主検査指針」に則った検査技術の習得だけでなく、簡単なメンテナンス方法についてもあわせて学ぶことで、ドラフトチャンバー等の構造の理解を深め、性能低下の原因特定や問題の切り分けができることを目指すという特色があります。具体的なメンテナンス技術としては、プレフィルター清掃、湿式スクラバーの水槽洗浄、乾式スクラバーの活性炭交換、排風機の

ベルト交換、軸受へのグリス充填などを紹介していますが、そういった経験のない受講者も多く、各回とも活発な質疑応答が行われました。本講習で学んだ内容は今後の各実験室での局所排気装置等の維持管理や、学生への指導等に活かされるものと期待されます。

なお、本講習は、次年度以降も開催する予定です。局所排気装置等を使用する研究室の教職員におかれましては、機会を見つけて積極的にご受講いただきますようお願いいたします。

（安全衛生本部）



講義の様子



実技の様子



独立行政法人日本学術振興会 平成28年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から4名

この度、独立行政法人日本学術振興会より、平成28年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰者が公表されました。今回は、書面審査において有

意義な審査意見を付した専門委員等として、対象者約600名の中から158名が選出され、本学からは、薬学研究院の中川真一教授、工学研究院の寺島洋史准教授、理学研究院の小田 研教授及

び内田 毅准教授の4名が表彰されました。

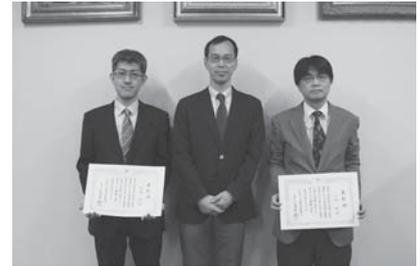
（研究推進部研究振興企画課）



薬学研究院 中川教授



（左から）工学研究院 増田研究院長、寺島准教授



（左から）理学研究院 内田准教授、石森浩一郎研究院長、小田教授

生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター 動物実験施設慰霊祭を挙げる

創成研究機構では、9月29日（金）に生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設において、創薬・機能性食素材の研究開発・事業化の礎として実験に供せられたマウス、ラット、ウサギの慰霊祭を執り行いました。慰霊祭には同施設で研究を行っている教職員、大学院生等約60人が参列しました。

はじめに、生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センターの幸田敏明センター長から、動物実験は、尊い命を犠牲にしていることを常に念頭に置いて実施していただきたい旨の挨拶があり、その後、参列者全員による黙

祷並びに献花が行われ、終わりに、綾部時芳先端生命科学研究院教授から、医学・生命科学の研究のために捧げられた動物に対する慰霊の言葉が述べられました。

参列者全員が生命の尊厳、倫理観について考える機会となり、厳粛のうちに慰霊祭を終了しました。

（研究推進部研究支援課）



挨拶を述べる幸田センター長



慰霊の言葉を述べる綾部教授

高等教育研修センターにてシンポジウム等を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、9月に以下のとおりシンポジウム等を開催しました。

(高等教育推進機構)

シンポジウム「アクティブラーニングは日本の教育を変えるのか」 参加者：83名

開催日：9月2日(土)

開催場所：高等教育推進機構大講堂

開催概要：大学では平成24年前後からアクティブラーニングへの転換が推進され、大学入学前の教育においても学習指導要領の改訂によって、全ての科目で順次アクティブラーニング化される予定になっている。そこで、高校や大学におけるアクティブラーニングの実践紹介等を基に、日本におけるこの取り組みが教育をどう変えるのか、参加者と議論することを目的として開催。



シンポジウム「アクティブラーニングは日本の教育を変えるのか」

Workshop on creating rubrics (ルーブリック評価表作成ワークショップ) 参加者：7名

開催日：9月8日(金)

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室(2)

開催概要：教員の成績評価における信頼性・客観性・透明性などが強く求められている現状において注目を集めているルーブリック評価について、基本的な知識を学び、実際にルーブリック評価表を作成することを目的として、カリフォルニア大学バークレー校Linda Von Hoene氏を講師に招き、英語で開催。



Workshop on creating rubrics

第33回北海道大学教育ワークショップ 参加者：21名

開催日：9月14日(木)・15日(金)

開催場所：高等教育推進機構S講義棟S5講義室

研修概要：採用されてから5年未満の教員を対象に、授業を構成するために必要な教育の基礎を理解すること、アクティブラーニング型授業を設計する方法を理解しシラバスを作成できること、志を同じくする同志と教育について話し刺激し合うことを目的として開催。



第33回北海道大学教育ワークショップ

アクティブラーニング導入ワークショップ 参加者：14名

開催日：9月20日(水)

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室(2)

開催概要：アクティブラーニングという言葉はすっかり浸透してきたが、その実態としてどのような授業を行えば良いのか、といった点についてはまだまだ共通理解が得られていない。アクティブラーニングを正しく理解し、自身の授業にどのように取り入れることができるかを考えることを目的として開催。



アクティブラーニング導入ワークショップ

ルーブリック評価入門ワークショップ 参加者：26名

開催日：9月22日(金)

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室(2)

開催概要：教員の成績評価における信頼性・客観性・透明性などが強く求められている現状において注目を集めているルーブリック評価について、基本的な知識を学び、実際にルーブリック評価表を作成することを目的として開催。



ルーブリック評価入門ワークショップ

「北大テニュアトラック事業説明会」を開催

人材育成本部は、9月29日（金）に事務局会議室Dにおいて北大テニュアトラック事業説明会を開催しました。テニュアトラック事業は若手研究者の育成と支援を目的とし、「広く開かれた採用」「人事制度」「リーダー育成プログラム」「研究環境・研究支援」の4つを制度の柱として企画・運営を行っています。

説明会では、本事業の実施責任者である先端生命科学研究院長の出村 誠教授より、北大テニュアトラック事業の概要や特徴、これまでの実績についての紹介があり、あわせて平成30年度の活動計画について説明がありました。また、テニュアトラック制度に関

する様々な意見を紹介し、今後の検討課題についての説明もありました。説明後は多くの質問が寄せられました。

北大テニュアトラック事業は、本年度で10年の節目を迎え、これまでに50名を超えるテニュアトラック教員を採用し、約半数はテニュア教員としてそれぞれの部局で活躍しています。

本学では「北海道大学近未来戦略150」の計画骨子の一つに「次世代を担う若手研究者などを支援・育成する」ことを掲げ、「若手研究者早期育成のための分野に応じたテニュアトラック制度の拡大」を明示しています。人材育成本部では、今後もテニュアトラック事業や制度活用に関する情

報提供の機会を設けるとともに、テニュアトラック教員の活動・イベント等をホームページで公開していきます。

◆ <https://tenure-track.cris.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



説明会の様子(先端生命科学研究院長 出村教授)

研究者のためのスキルアップセミナー⑩ 「プレゼンテーションのための非言語表現」を開催

9月29日（金）に学術交流会館小講堂にて「研究者のためのスキルアップセミナー⑩プレゼンテーションのための非言語表現」を開催し、教職員・大学院生を中心に60名が参加しました。

当セミナーは、大学力強化推進本部と創成研究機構が、研究大学強化促進事業の一環として、研究者が成果等を社会に発信する際に必要となるスキル向上のために実施しています。平成25年より定期的に開催しており、今回は記念すべき第10回目となりました。

自身の研究について他者に語りかける時、美しいパワーポイントをつくることと同じように、いかに楽しく魅力

的であるかを表情や身振りで表現することも重要です。今回のセミナーは、話し方の基礎をほんの少し学ぶだけで、劇的に聴衆を引きつけるプレゼンテーションができるようになるということも研究者にも学んでいただけたらと思います。

はじめに、研究推進部の山崎淳一郎部長より開会の挨拶があり、その後、人形劇師であり演出家の沢 則行氏にご講演いただきました。講義や講演などのプレゼンテーションで、より聴衆を魅了するためにはどのように語り掛けると良いか、目線、姿勢、身振り手振りなどの身体表現、そして、あらゆる

非言語表現についてお話ししていただきました。

セミナー後半の質疑応答タイムでは多くの質問が寄せられ、沢氏は一人ひとりに丁寧に答えていました。アンケートでは、参加された8割の方が当セミナーに「満足した」と回答していました。また、今後のセミナーの課題についてのご意見も多くいただき、当セミナーに対する関心の高さがうかがえました。

今後も当セミナーの定期的・継続的な開催を検討していきます。

（創成研究機構）



挨拶をする山崎部長



沢氏による講演



非言語表現を体感する参加者

TERRACE—科学とアートが出会う場所—Act 1 「北海道というヴァナキュラーな風景」を開催

創成研究機構では、9月14日（木）に遠友学舎において、TERRACE—科学とアートが出会う場所—Act 1「北海道というヴァナキュラーな風景」を開催しました。TERRACEとは、「科学とアート」で課題や価値を可視化し、新たな教育・研究・広報・地域貢献につなげるための全学横断的な有志による活動です。

1回目の開催となる今回は、一般市民、教職員、学生など73名の参加者がありました。

はじめに、本学サステイナブルキャンパス推進本部の池上真紀特任准教授による開会の挨拶があった後、イントロダクションとして、工学研究院の小篠隆生准教授による「キャンパスに込められた意味」と題して、本学のキャンパスが持つ意味を探るためにどのような見方が必要なのか、海外の大学

キャンパスの事例紹介や札幌の都市の成長とともに変化してきた北大キャンパスの変遷について、古地図や絵画などの紹介を交えて話がありました。

また、札幌国際芸術祭参加アーティストで詩人の吉増剛造氏に「石狩シーツとサクシュコトニ川」と題して、サクシュコトニ川とご自身の作品とのつながり、北大キャンパスの中に見つめた窪地から連想される思考の広がりについてお話しいただきました。この期間開催されていた総合博物館での吉増剛三展「火ノ刺繍—『石狩シーツ』の先へ」に関するお話もありました。

最後に、東京外国語大学の今福龍太教授から「ヴァナキュラー、記憶のブルース、十字路」と題して、北海道をヴァナキュラーという視点でとらえると、単に掘り進めると何か古いものに

突き当たるというような土地ではなく、様々な場所や時間に開かれた十字路のようなものだったのではないかというお話がありました。

トークセッションは「キャンパスの過去・現在・未来」と題して行われましたが、ヴァナキュラーという主題から見える多様性から話は大きく展開し、最後には中央ローンが全てを取り込む窪地であり、知識が集まるつむじであるという新たな解釈が生まれました。

来場者アンケートでは、「会場の遠友学舎の雰囲気がとてもマッチしていた」「キャンパスにとどまらずスケールの大きい話が聞けた」「この時代に生きる意味を感じさせていただいた」などの意見がありました。

（創成研究機構）



池上特任准教授による挨拶



小篠准教授による講演



吉増氏による講演



今福氏による講演



会場の様子



懇親会会場の様子

TERRACE MEETING

「大友良英×中垣俊之と語るTERRACE ってなんだ？」を開催



集合写真



自由討論の様子

創成研究機構は9月19日（火）総合博物館1階「知の交流」において、TERRACE MEETING「大友良英×中垣俊之と語るTERRACE ってなんだ？」を開催しました。

本学の有志で取り組むプロジェクト「北海道大学 TERRACE- 科学とアートが出会う場所-」は、札幌国際芸術祭（SIAF）2017などと連携し、科学者とアーティストが出会う場の創造にチャレンジしています。今回は、北大キャンパスも芸術祭会場の一つとなりましたが、その他にも、TERRACEでは学内外で様々な「科学とアートが出会う場」を作りました。

本ミーティングは、これまでのTERRACEの活動を振り返り、科学とアート、北大と札幌、市民と研究者、大学と街をより良い形でつなぐ場やその価値について検討することを目的で開催されました。そして、TERRACE代表で電子科学研究所の中垣俊之教授による「研究者のアートな頭使い」、SIAF2017ゲストディレクター・音楽家の大友良英氏による「SIAF2017からみるTERRACE」、総合博物館の山本順司准教授による「大学の中の博物館」、TERRACEを進めてきた高等教育推進機構の朴炫貞特任助教による「TERRACE、どこへ向かうのか」と

題した情報提供を行いました。

その後、多様な立場の人が集まり、意見交換を行いました。参加者からは、バックキャストや目的志向の教育や研究の問題点、前例を作ることの重要性、そして、「なぜ」を問い続けられる場が科学でもアートでも本質的に重要である、といった意見が出ました。

TERRACEの活動にご興味がある方は、創成研究機構研究支援室までご連絡ください。

（創成研究機構）



中垣教授による講演



大友氏による講演



山本准教授による講演



朴特任助教による講演

北海道大学×技術ベンチャーセミナー 「研究開発型ベンチャー創出サミット」を開催

9月19日（火）に農学部1階S11教室において、北海道大学×技術ベンチャーセミナーを開催しました。

当セミナーは本年、本学と小樽商科大学など6つの大学がコンソーシアムを組んで採択された、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）の広報事業の一環として開催したものです。

セミナー前半では、「続、良いテーマが起業に至らなかった理由～VCがあきらめた技術を見事に起業した体験談～」と題して、本学より農学研究院の西邑隆徳教授と産学・地域協働推進機構の牧内勝哉客員教授（前副機構長）が、大学発ベンチャーの設立における体験談を紹介しました。ベンチャーキャピタル（以下VC）、知的財産権、マーケティングなど大学では不

得意な分野に関して、学びながら実践した様子を語りました。特にVCが企業化をあきらめた後、経営者を探し、事業化に至った経緯については、大学の技術シーズの起業にありがちな問題点とその解決策が凝縮していました。

Beyond Next Ventures株式会社の盛島真由マネージャーからは、同社が実施している創業前後の事業化を支援するアクセラレーションプログラムであるBRAVEについてご説明いただき、一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）の宮崎 尚参事からバイオベンチャー支援に関する事業についてご説明いただきました。

後半は、育成ピッチと題して、本学の技術シーズ、ビジネスシーズについてのプレゼンテーションと専門家から

のアドバイスを4テーマ実施しました。それぞれにテーマを5分程度でプレゼンテーションし、起業・研究資金調達の観点から、盛島氏、LINK-Jの宮崎氏、デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社ベンチャー支援事業部の柏 修平氏からアドバイスをいただきました。

当セミナーには、学内外から約40人が参加し、セミナー終了後には個別相談会を開催して、登壇者と一対一での相談の機会を設けました。

産学・地域協働推進機構では、今後も密度の高い創業の情報交換、意見交換を行うことができる機会を提供していきたいと思っております。ご期待ください。

（産学・地域協働推進機構）



産学・地域協働推進機構の末富 弘人材育成部門長による開会挨拶



農学研究院 西邑教授



Beyond Next Ventures株式会社
盛島マネージャー

■ 部局ニュース

タイ王国農業・協同組合省副大臣，同地理情報・宇宙技術開発庁副長官及び内閣府官房審議官が農学研究院を視察



参加者全員による集合写真

9月21日（木）に、タイ王国から農業・協同組合省のチュティマ ブンヤパバサラ副大臣をはじめ5名，同地理情報・宇宙技術開発庁のスパピス ポンガム副長官をはじめ8名，その他16名の総勢29名，及び黒田 亮内閣府官房審議官（科学技術・イノベーション担当）他1名が農学研究院を訪れ，国内最先端の農業用ロボットトラクタのデモンストレーション及びドローンによる空撮等の視察を行いました。

最初に，名和豊春総長からの挨拶の後，西井準治理事・副学長，横田 篤農学研究院長，山田敏彦国際食資源学院副学院長及び増田隆夫工学研究院長が本学の紹介を行いました。引き続き，スマート農業セミナーとして，黒田内閣府官房審議官（科学技術・イノベーション担当）からの挨拶の後，谷宏農学研究院准教授，金子俊一情報科学研究科教授，高橋幸弘理学研究院教授及び野口 伸農学研究院教授が最新

の研究内容の説明を行いました。その後，北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場に移動し，農業用ロボットトラクタのデモンストレーション及びドローンによる空撮等の視察を行いました。

今回の視察は，双方にとって大変有意義なものとなりました。

（農学院・農学研究院・農学部）



記念品を交換する名和総長とチュティマ副大臣



記念品を交換する名和総長とスパピス副長官



野口教授（左），黒田官房審議官による視察後の記念撮影

歯学部創立50周年記念事業（記念講演会，記念式典，記念祝賀会）を開催

歯学部は昭和42年6月1日に創立され、本年度で創立50周年を迎えました。これを記念して、9月30日（土）に札幌グランドホテルにおいて歯学部創立50周年記念事業を開催し、全国及び海外から250名を超える関係者が参加しました。

北海道歯学会との共催による記念講演会では、横山敦郎歯学部長の挨拶の後、石川博之福岡歯科大学長から「近年の矯正歯科治療の潮流」、アン スン グン全北大学校歯医学専門大学院長（韓国）から「Prosthetic treatment for elderly patients with complex problems（複雑な補綴の問題を併せ持つ高齢者に対する補綴治療）」、モヒューディン アーメッド サッポロデンタルカレッジ学長（バングラデシュ）から「Management of aggressive benign lesions of jaw - Our experience in Bangladesh（顎骨に発症した侵攻性

良性疾患の管理－バングラデシュにおける我々の経験から）」、ピーター スベンソン オーフス大学教授（デンマーク）から「Progress in oral health and pain research over 50 years - where are going now ?（過去50年における口腔保健と疼痛に関する研究の進歩－我々はどこに向かっているのか?）」と題し、4題の記念講演が行われました。講演会終了後には横山歯学部長から講演者に感謝状が贈呈されました。

記念式典では、横山歯学部長が式辞を述べ、名和豊春総長の挨拶の後、森孝之文部科学省高等教育局医学教育課長及び田口円裕厚生労働省医政局歯科保健課長から祝辞をいただきました。引き続き、戸谷一夫文部科学事務次官、高橋はるみ北海道知事及び秋元克広札幌市長からの祝電が披露されました。

記念式典終了後、会場を移して記念祝賀会が行われました。北川善政北海道大学病院副院長から主催者挨拶、藤田一雄北海道歯科医師会会長及び富田喜内名誉教授から来賓挨拶をいただき、鏡開きが行われた後、村井清彦北海道大学歯学部同窓会長による祝杯により祝宴が始まりました。和やかな雰囲気の中、山田 尚札幌歯科医師会会長及び雨宮 璋名誉教授から祝辞をいただき、祝電披露の後、「写真で振り返る50年」と題したスライド上映では、歯学部創立当初から現在までの歴史が紹介され、参加者一同が見入っていました。最後に、大畑 昇名誉教授のご発声により「都ぞ弥生」を参加者全員が輪になって斉唱し、福島和昭名誉教授の乾杯で盛会のうちに終了しました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



記念講演会：スベンソン教授による講演



記念式典：式辞を述べる横山歯学部長



記念式典：挨拶をする名和総長



記念式典：祝辞を述べる森文部科学省医学教育課長



記念式典：祝辞を述べる田口厚生労働省歯科保健課長



記念祝賀会：会場風景

工学研究院で土木工学研究棟改築記念式典を挙

工学研究院では、9月30日（土）、工学部オープンホールにおいて、土木工学研究棟の改築記念式典を挙

行了。本研究棟は、耐震性能が低く老朽化が進んだ土木棟を改築したもので、未来のインフラテクノロジー開発拠点となるべく、多様な機能を備えた高度な研究環境が実現されており、本年7月に竣工しました。

本式典には、名和豊春総長をはじめ、工学研究院の同窓生、関係教職員、学生等、約90名が出席しました。

本式典では、名和総長、増田隆夫工学研究院長・工学部長からの式辞の後、佐伯 浩元総長、三上 隆前理事・副学長から祝辞が述べられました。

続いて、萩原 亨工学研究院教授から、本研究棟の概要紹介が行われ、数

多くの実験設備が設置された高度な研究環境や、学生・研究者の交流をはじめとする様々な目的に利用可能な設備についての説明に、出席者は興味深く聞き入っていました。

最後に、式典の司会を務めた泉 典洋工学研究院教授から閉会の挨拶があり、盛会裡に終了しました。

（工学院・工学研究院・工学部）



式辞を述べる名和総長



式辞を述べる増田工学研究院長・工学部長



祝辞を述べる佐伯元総長



祝辞を述べる三上前理事・副学長



萩原教授による施設概要紹介



司会を務める泉教授

北海道大学病院が夕張市と連携協定を締結

北海道大学病院は、9月25日（月）、夕張市と「住民の健康増進に関する連携協定」を締結しました。本協定は、住民の健康増進に関する企画・立案、住民への健康情報提供、医療コミュニティの構築等を通して、本院と同市が夕張市民の健康増進に資することを目的としたものであり、本院が地方自治体と連携協定を締結するのは初めてとなります。

夕張市役所において行われた締結式の中で、寶金清博病院長は、スマートフォンの医療用アプリを活用した夕張市立診療所との連携や、夕張市民に対する健康講座の開催について具体的な構想を明らかにするとともに、今後、

全国最高水準の高齢化率である夕張市におけるコホート研究の可能性についても模索していきたいと述べました。

本院では、地域への貢献を進めるとともに、他の病院や自治体にとっての

パイロットモデルを示すことを目指し、夕張市との具体的な連携を強化してまいります。

（北海道大学病院）



連携協定締結後の記念撮影
（左：寶金病院長、右：鈴木直道夕張市長）



パネルを用いて連携構想を説明する寶金病院長

経済学研究院で嶺南大学校商経大学との共同セミナーを開催

経済学研究院は、9月8日（金）に韓国・嶺南大学校商経大学との第9回共同セミナーを開催しました。本セミナーは、平成13年以降、学術交流協定に基づき隔年で両校交互に開催しているものです。

当日は4つのセッションが行われ、嶺南大学校からの4名を含む計10名が英語で研究発表しました。題目は、試算格付け、物理学教授と大学院生の研究成果の相関、賃金の地域比較、日本の漫画産業、中小企業の社会的責任、

産業組織論、韓国における移民等、経済・経営の各分野で多岐にわたりました。

博士課程の学生によるポスター発表も行われ、日本人学生・留学生の3名が、サービス産業、年金制度、ベイズ統計分析について研究報告しました。本研究院長、教員、訪問研究者、大学院生など多数の参加者が加わり、活発かつ濃密な質疑応答が行われました。さらに、報告論文集も印刷・配布されました。

今回の共同セミナーでは、日韓両国の研究者の関心方向や研究内容を知ると同時に、経済学・経営学の国際動向を共通軸に重層的な学術交流ができました。海外交流協定校との連携強化やグローバルな研究教育の拠点形成等、研究院の国際戦略や大学院の高度化にも貢献しました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



セミナーの様子



ファカルティハウス「エンレイソウ」で記念撮影

国際広報メディア・観光学院が英国シェフィールド大学及びフィンランド・ヘルシンキ大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催

国際広報メディア・観光学院では、9月11日（月）から15日（金）まで、フィンランドのヘルシンキ大学において、「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project；TLLP）・スタディ・ウィーク」を開催しました。

TLLPとは、国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、英国シェフィールド大学、リーズ大学、フィンランド・ヘルシンキ大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。このプロジェクトの目的は、①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築、②研究遂行（データ収集、インタビュー、研究発表、研究討論）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得にあります。具体的な教育プログラムの内容は、両大学の大学院生同士がペアを組み、互いに相手の研究のサポートをするタンデム・ラーニ

ング、またその進展をウェブ上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに、相互に相手の大学を訪問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディ・ウィーク」を年に1回開催しています。

本年度のスタディ・ウィークは、フィンランドのヘルシンキ大学で、海外ラーニング・サテライト事業として開催されました。本学院から9名の大学院生と4名の教員が参加しました。セッションでは、学生による研究発表、教員による講義、研究助成金や奨学金獲得のためのスキルについてのワークショップなど、様々な研究・教育交流が行われました。TLLPの趣旨に基づき、本学の学生は英語で、ヘルシンキ大学及びシェフィールド大学の学生は日本語で研究発表を行いました。また、学生はセッションチェアも担当し、外国語でどのようにセッションを取り仕切るかを経験する機会とな

りました。数か月にわたり、発表要旨、パワーポイント、発表原稿などについてお互いの研究をウェブ上で研鑽してきた成果が、スタディ・ウィークで発揮されました。

2014年と2016年に北大、2015年にシェフィールド大学で開催されたTLLPスタディ・ウィークも4年目を迎え、その教育効果と研究交流への期待から、昨年はオーストラリア国立大学、メルボルン大学からの参加者もありました。次年度はメルボルン大学もしくはシェフィールド大学での開催をそれぞれの大学が希望しています。本学院は今後も、国際社会を舞台に活躍する研究者を育成することを目指し、海外諸大学との教育・研究交流を続けていきます。

（国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院）



ワークショップの様子



参加者記念撮影

平成29年度 地球環境科学研究院公開講座「健康を目指す環境科学」を終了

地球環境科学研究院では、平成29年度公開講座「健康を目指す環境科学」を8月22日（火）から9月26日（火）まで全6回開講し、40歳代から80歳代までの58人が受講しました。

環境汚染物質が健康を損なうことが心配されますが、環境科学は、汚染物質の健康に及ぼす影響を調べ、健康を守りながら化学物質を使う仕組みを整えることに貢献してきました。また、環境汚染物質を取り除く方法を開発する一方で、健康を守る化学物質も見つかってきました。この公開講座では、化学物質の影響評価・管理等の研究に

携わる6人の研究者たちが最新の研究成果をわかりやすく説明し、受講者からも非常に好評のうちに終了となりました。

最終回の講義終了後、全6回の講義

のうち4回以上出席した51人の受講者に修了証書が授与されました。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



久保川厚研究院長による開講挨拶



沖野龍文教授による講義（第1回）

薬学研究院で障害者差別解消とハラスメントをテーマにFD研修会を開催

薬学研究院では9月19日（火）に臨床薬学講義室において、本年度第3回FD研修会を開催しました。今回のテーマは、昨今教育・研究を担う大学教員にとって大変重要なテーマとなっている障害者差別の解消と様々なハラスメントに関するものでした。

佐藤美洋薬学研究院長の挨拶の後、本学特別修学支援室の伊藤康弘准教授並びにハラスメント相談室の築田美抄相談員から講演がありました。

伊藤先生からは「障害者差別解消法解説実践講座『高等教育における修学支援』」と題して、まず、近年の障害者施策の流れについて、特に国連での「障害者権利条約」採択を受けての障害者観のパラダイムシフトや社会的障壁について説明があり、さらに我が国において昨年4月に施行された「障害者差別解消法」に明示された内容、合理的配慮とは如何なるものか、またその必要性についての概説がありました。さらに、障害のある学生の修学支援において、特にどのように合理的配慮を実践すべきかを、事例を交えなが

らわかりやすく紹介しました。

築田先生からは「ハラスメントの核心-セクハラ・パワハラ・アカハラだけではない！『モラルハラスメント』という問題-」と題して、様々なセクハラ、パワハラ、マタニティハラスメントに関して、どの段階でレッドカードとなるのか、様々な事例によってわかりやすく説明がありました。また、メンタルヘルスが職場の生産性・クオリティを支えるという、当たり前でありながら忘れがちな重要ポイントの指摘がありました。さらに、アドバンス編として「モラルハラスメント」について話がありました。研究室の人間関

係のモデルを使った例示・説明を通して、大学の研究室という閉鎖的になりがちな少数の職場で起こりやすい、見えにくく厄介なモラルハラスメントについて指摘があり、注意喚起しました。

大学の使命である教育と研究において、学生同士、学生と教員、あるいは教員間の人間関係が健全であることの大切さを改めて学びました。薬学研究院教員の今後の教育・研究活動に役立つ大変有意義なFD研究会となりました。

（薬学研究院・薬学部）



講演する伊藤先生



講演する築田先生

FD研修「新渡戸ポートフォリオ（理学生命科学版）について」を開催

9月15日（金）に理学部大講堂で、FD研修「新渡戸ポートフォリオ（理学生命科学版）について」を開催しました。

新渡戸ポートフォリオは新渡戸スクールで開発されたオンライン「学修ポートフォリオ」で、学生の学修過程を可視化し、到達度の自己評価や自律的な学修をより深化させ、教育成果の測定・授業改善に役立てるために利用されています。主な機能は、「学修ポートフォリオ」と「授業支援機能」で、新渡戸スクール科目用に設計されました。現在のバージョンの場合、授業支援機能は部局専門科目の授業運営にも活用できる仕様となっています。

理学部・理学院・生命科学院では、今年度2学期より新渡戸ポートフォリオを「理学生命科学版」仕様として導入を開始することとなり、今回、合同FD研修を開催しました。参加者は51名（教員44名、理学・生命科学事務部5名、その他2名）でした。理学部生

物科学科（高分子機能学専修分野）、生命科学院生命科学専攻（生命融合科学コース）を担当する先端生命科学研究院の講師により、同ポートフォリオ導入の経緯や利用法の解説が行われました。会場ではHINES-WLAN接続PCを持参した参加者の実演も実施されました。

本学の第3期中期目標・中期計画では、新渡戸スクールのポートフォリオを基礎とした学生の学修過程を可視化できる全学的な修学ポートフォリオを検討・開発し、各学部・研究科等にお

いても順次導入することとしています。FD研修後のアンケートでは、軽快なシステムでぜひ利用したいという意見と同時に、機能拡張の要望、教務システム（Web登録）との連動や全学展開など課題提案もあり、大変有意義な研修となりました。今後は部局教職員向けポータルサイトからユーザマニュアルやQ&Aなどを提供する予定です。

（理学院・理学研究院・理学部、
生命科学院・先端生命科学研究院）



理学部大講堂で実施したFD研修の様子

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、9月26日（火）に学術交流会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された389名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、御遺族、名和豊春総長、理事、部局長、教職員、学生、学外関係者等約380名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、吉岡充弘医学部長及び横山敦郎歯学部長から、御霊の御意志に報いるためにも一層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後、参列者による献花を行い、最後に吉岡医学部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部、
歯学院・歯学研究院・歯学部）



追悼の辞を述べる吉岡医学部長



追悼の辞を述べる横山歯学部長



献花をする名和総長



謝辞を述べる吉岡医学部長

動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設

医学研究院附属動物実験施設では、9月20日（水）に、平成29年度動物慰霊式を医学部学友会館「フラテ」ホールにおいて執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に

受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、教職員、学生等約130人が参列しました。

はじめに渡邊雅彦施設長から追悼の辞を述べた後、吉岡充弘研究院長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花を行

いました。最後に渡邊施設長から適正な動物実験の実施について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



追悼の辞を述べる渡邊施設長



吉岡研究院長による献花



参列者による献花

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所では、9月27日（水）に遺伝子病制御研究所セミナー室において、昨年9月から1年間に学術研究の礎として実験に供せられた動物の御霊を慰霊するため、動物慰霊式を執り行いました。

慰霊式には研究所教職員、学生等関係者が多数参列し、はじめに、村上正

晃研究所長から、生命の尊さを常に考え、動物福祉に一層配慮した研究態勢を考えていくことを願う旨の挨拶がありました。引き続き、参列者全員による黙祷、研究分野等代表者による献花が行われ、最後に、清野研一郎動物実験施設長から追悼の辞と共に、今後とも諸法令を遵守し、適切な動物実験の

実施について、理解と協力を願う旨の挨拶がありました。

この動物慰霊式を通して、参列者全員が生命の尊厳、倫理観について改めて認識し、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（遺伝子病制御研究所）



献花を行う村上所長



挨拶を述べる清野施設長

獣医学研究院

獣医学研究院では、10月6日（金）に獣医学研究院講堂において、動物慰霊式を執り行いました。慰霊式は研究・教育のために提供された動物や附属動物病院で治療の甲斐なく死亡した動物の御霊に対し追悼の意を表するとともに、獣医学発展の陰に多数の動物

の尊い生命が犠牲にあることを厳粛に受け止め、生命への畏敬と倫理的責任感を啓発することを目的としたもので、教職員、学部生・大学院生のほか、飼い主等約250人が参列しました。はじめに、動物の御霊に対して黙祷を捧げた後、堀内基広研究院長の式

辞、参列者による献花、滝口満喜附属動物病院長による講話が行われ、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（獣医学院・獣医学研究院・獣医学部）



式辞を述べる堀内研究院長



献花する参列者

北海道大学病院で災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練を実施

北海道大学病院では、9月13日（水）、医師や看護師、学生ら約300人が参加し、広域大規模災害の発生を想定した第14回北海道大学病院災害医療訓練を実施しました。

訓練は、札幌近郊で大地震が発生し、エレベーターや一部医療機能が停止した状況で傷病者を受け入れるという想定で行われました。

まず、傷病者の緊急度や重傷度によって治療や後方搬送の優先順位を決めるトリアージセンターを外来玄関前と外来ホールに設置し、あらかじめそれぞれに設定された被災状況に応じたメイクを施された90名ほどの模擬被災者を、トリアージタグと呼ばれるタグ（緑、黄、赤、黒の4色）を用いて優

先順位を識別し、それぞれの対応センターへ振り分けます。赤タグがつけられた重症者はアメニティホールに搬送され、担当職員らは声かけをしながら対応の流れを確認しました。DMAT（Disaster Medical Assistance Team）と呼ばれる災害時派遣医療チームも処置治療センター（赤）に配置され、同センター担当の医師・看護師等と連携を行いました。また、処置治療センター以外にも、本部機能、医療機器や模擬被災者の搬送、ボランティアの受け入れ、被災者の安否確認対応などの訓練も行われました。約1時間にわたる訓練は、松居喜郎副病院長による訓練終了の宣言で幕を閉じました。

また、9月15日（金）には、放射性物質、生化学物質などによる災害やテロの発生を想定したCBRNE（Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, Explosives）災害対策訓練も実施されました。訓練には約50人が参加し、脱衣テント、除染テント等を設置し、防護服を着用した医師・看護師が、傷病者の到着から汚染の除去、病院内へ搬送するまでの手順を確認しました。

このような大がかりな訓練を定期的に行うことにより、職員の危機意識の向上と、実際の災害直面時に適切な対応が可能となることが期待されます。

（北海道大学病院）



トリアージセンターの様子（災害医療訓練）



処置治療センター（赤）の様子（災害医療訓練）



除染テント内の様子（CBRNE災害対策訓練）

北海道大学病院が第2回北海道国際医療ネットワークを開催

北海道大学病院は9月23日（土・祝）、京王プラザホテル札幌において、「第2回北海道国際医療ネットワーク」を開催しました。本会は、道内で国際医療に携わる関係者がこれまでの実績及び今後の取り組みについての情報共有を行うことを目的として、昨年度から本院が主催しているもので

す。長瀬 清北海道医師会長、田中一成北海道厚生局長、経済産業省商務情報政策局の西川和見ヘルスケア産業課長、佐藤 敏北海道保健福祉部長の4名の来賓からご挨拶いただき、本会は開会しました。

本会は、3つのテーマから構成され、第1部「医療のグローバル化」では、本院の寶金清博病院長、日揮株式会社の三原 眞ヘルスケア事業部長、九州大学病院の清水周次国際医療部長の3名から講演がありました。

続く第2部「医療通訳・翻訳」では、東京大学医学部附属病院の山田秀臣国際診療部副部長、りんくう総合医療センターの南谷かおり国際診療科部長、本院の李建銓中国語医療通訳者、SEMI（札幌英語医療通訳グループ）の寺尾 恵代表の4名から講演がありました。

第3部「道内医療機関の取り組み」では、本院のピーター・シェーン国際医療部副部長、札幌東徳洲会病院の太田智之病院長、倶知安厚生病院の稲熊

良仁総合診療科医長の3名から講演があり、本会は寶金病院長からの挨拶で盛会のうちに閉会しました。

医療関係者のみならず、行政や民間企業、通訳者等、非常に多様な職種から、昨年度を大きく上回る130名近くの方が参加し、「国際医療」という未開拓の分野において、情報共有、相互理解を深める大変有意義な会となりました。

（北海道大学病院）



寶金病院長による講演



質疑応答の様子

附属図書館で北海道大学インターンシップを実施

附属図書館では例年、北海道大学インターンシップを実施しています。今年度は9月4日（月）から12日（火）まで、土日を除く7日間の日程で行い、インターンシップ実習生1名を受け入れました。

本学のインターンシップは、学生の職業意識の育成・向上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的とした就業体験です。附属図書館では、実習生が業務体験を通して図書館のことをより深く理解し、その後の学生生活において図書館を有効に活用できるようにすること、また、図書館側としては学生のニーズを把握することを目指して毎年積極的に受け入れを行っています。

実習生は、全体オリエンテーションの後、附属図書館にて、図書・雑誌等資料の受入、電子資料の管理、目録、貸出・返却等の窓口対応、配架、蔵書

点検、レファレンス、情報リテラシー、貴重資料の取り扱い、他大学との文献複写や図書貸借等を行う相互利用、システム管理、機関リポジトリ（HUSCAP）などの業務について実習しました。短期間ながら図書館業務のほぼ全てを体験しました。

最終日には、まとめとして、「なぜ図書館を選んだか」「実習の成果」「北大図書館への要望・提言」「『社会で働く』とは」をテーマとした実習生によるプレゼンテーションを行いました。

「書籍の受入から利用までの流れを知った」「それぞれの作業が利用者につながる事がわかった」などの成果、「図書館利用・情報リテラシー講習会の内容拡充」「修学支援を広く伝える」といった図書館への提言などが発表されました。今年度も学生と附属図書館双方にとって、大変意義のあるインターンシップとなりました。

（附属図書館）



図書館員の指導を受ける実習生



実習生によるプレゼンテーション

北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受入れ

北図書館では、9月13日（水）に札幌藻岩高等学校2年生3名、15日（金）に市立札幌開成中等教育学校4年生3名を「職場体験学習」の実習生として受入れました。

「職場体験学習」は、高校生が職場で働くことを通じて、仕事の体験や働く人々と接することを目的に各高校が実施する事業で、北図書館において毎年9月頃、各高校からの協力依頼に基づき実施しているものです。

当日は、最初にオリエンテーションとして、北大図書館の概要や北図書館の役割等の説明と、体験内容の説明を行いました。その後の体験実習では、実習生はカウンターでの貸出・返却業務をはじめ、図書の配架（本を棚に並べる作業）、蔵書点検（本の棚卸し）、ブッカー掛け（図書への透明フィルムシートの貼付）、レファレンス（資料の調査依頼受付）など、多様な業務を1日かけて経験しました。また実習の最後には、複数の課題から一つを選択し、展示等の企画案をプレゼンテ

ーションしました。ここでは、高校生ならではの視点から新鮮なアイデアが飛び出し、職員らの刺激にもなりました。

実習生からは「ブッカー掛けが思ったよりも難しくて上手に掛けられな

かった」「書庫にこんなに本を所蔵しているのに驚いた」などの感想が寄せられました。

（附属図書館）



ブッカー掛けを体験する藻岩高校生



プレゼンテーションを行う藻岩高校生



ブックポストから本を回収する開成中等教育学校生



配架作業を体験する開成中等教育学校生

環境健康科学研究教育センターが平成29年度前期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催

9月19日（火）、環境健康科学研究教育センターにおいて、平成29年度前期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催しました。今回は1名（医学院：田中穂乃佳）のプログラム修了生に対して、小笠原克彦環境健康科学研究教育センター長からディプロマが授与されました。

本プログラムは、本学大学院のすべての専攻／学院／研究科に在籍する大学院生に開かれたプログラムです。本プログラムでは、大学院共通授業「社会と健康」から5領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムを編成しており、また、「社会と健康」に加えて、これまでに各学院・研究科が提供する科目、あるいは「社会と健康」として提供されている科目以外の58科目が、ディプロマプログラムへの振替科目として認められています（平成29年9月現在）。

「社会と健康」領域において、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対し

て、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要な公衆衛生に関わる知識を得るため、科目選択の指針を与えています。本プログラムの指針に沿って科目選択し、単位が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与します。

「社会と健康」ディプロマは、平成27年3月に第1回目の授与を行い、今回は第5回目の授与式となり、累計11名がプログラムを修了しました。これ

までに、医学院、教育学院、保健科学院、文学研究科、農学院、獣医学院、工学院所属の学生が参加しており、研究分野の垣根を越えた文理融合型の人材育成となっています。留学生の参加も増え、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

平成29年度後期「社会と健康」ディプロマプログラムの登録申請は、本年12月末まで受け付けており、来年3月に授与式を予定しています。

（環境健康科学研究教育センター）



授与式後の記念撮影

リーディングプログラム新プログラム生10名を採用



新プログラム生の集合写真

物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(ALP)*は、10月1日付で新プログラム生10名の採用を行いました。これらの新プログラム生は、総合化学院、生命科学院、理学院、工学院、環境科学院の関連5専攻の修士課程の学生の中から選抜試験を経て採用されました。プログラム生の採用は今年度で5回目となり、ALPの学生は総勢65名となりました。初年度に採用されたプログラム生は現在博士課程3年となり、この度の新プログラム生採用により初めて5学年が揃いました。

採用に先立って9月19日(火)に事務局大会議室で行われた新プログラム

生の採用式では、プログラム責任者である長谷川晃理事・副学長より新入生一人ひとりに認定書が授与されました。プログラムコーディネーターである石森浩一郎教授からは、「全学年が揃う節目の年に採用された皆さんのグローバルな活躍を期待する」との激励の言葉が述べられました。採用式に続き、法哲学が専門である長谷川理事・副学長による「Ambitious研究倫理セミナー：科学の法秩序」と題したセミナーが行われました。プログラム生は、研究者自身と社会との間の関係性に対する深い洞察力(内省的知力)を養うことが強く求められます。新プログラム生は、採用式の直後にこのセミ

ナーを受講することにより、それぞれに課せられた期待と責任の重さを自覚する良いきっかけとなりました。

*ALPは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援を受けて平成25年度よりスタートした5年一貫の大学院教育プログラム。産業界や学術・研究機関など、様々な領域で幅広く活躍可能なグローバルリーダーを養成することを目的としている。そのために、「圧倒的専門力」「俯瞰力」「フロンティア開拓力」「国際的実践力」「内省的知力」と名付けた5つの力を獲得することを目標としたカリキュラムと、充実した経済支援をプログラム生に提供している。

(総合化学院)



採用式冒頭で挨拶を行う石森プログラムコーディネーター



新プログラム生に認定書を授与する長谷川理事・副学長



長谷川理事・副学長によるセミナーの様子

獣医学系事務部の近藤哲仁主任が全国レク大会スポーツチャンバラで総合優勝

獣医学系事務部の近藤哲仁主任が、9月17日（日）に函館市勤労者総合福祉センター（サン・リフレ函館）において開催された「第71回全国レクリエーション大会 in 北海道 スポーツチャンバラ交流大会」（主催：日本レクリエーション協会、共催：スポーツ庁）において総合優勝し、グランドチャンピオンとなりました。

本大会は、使用する剣の種類ごとに、8種目のトーナメント戦を行い、種目別の優勝者を決定し、その後各種目の優勝者によるグランドチャンピオン決定トーナメントを行い、総合優勝者であるグランドチャンピオンを決定するものです。

近藤主任は、2本の剣を使う「二刀の部」の種目別優勝者となりグランドチャンピオン決定トーナメントに進出し、総合優勝を勝ち取りました。

また、近藤主任が監督を務める北海道大学スポーツチャンバラ部翠剣会の部員である水産学部4年の高橋健吾選手は「長剣両手の部」の種目別優勝者となり、工学部3年の前田進太郎選手は「楯長剣の部」の種目別優勝者となりました。

近藤選手は「スポーツチャンバラの

全国大会が北海道で開催されるのは初めてのことで、そこで優勝できたことが何より嬉しく思います。今後とも学生への指導も含め、ますます研鑽を積んでいきたいと思います」とさらなる意気込みを述べました。

（獣医学系事務部）



総合優勝した近藤主任



スポーツチャンバラ部翠剣会の部員と記念撮影
（近藤主任（後列左側）、高橋選手（同左から3人目）、前田選手（前列左から2人目））

■お知らせ

医療費通知事業の実施

国家公務員共済組合法附則第14条の3第1項に基づく国家公務員共済組合連合会共同事業の一つとして、昭和56年度から実施している医療費の通知事業を今年も行うことになりました。

この通知事業は、組合員に対し医療費の額等を通知することにより、組合員等に健康に対する認識を深めていただき、ひいては、短期給付事業の健全な運営に資することを目的として、特定月における支払分について通知するものです。

実施内容は次のとおりです。

1 通知の対象

組合員及びその被扶養者に係る平成29年6月診療分の診療報酬明細書（レセプト）による医療費の額等です。

なお、共済組合の直営医療機関並びに契約医療機関に係る請求分、任意継続組合員に係る請求分、特定の診療部門に係る請求分は通知の対象から除外されます。

2 通知の内容

通知の内容は、受診者名、診療年月、診療日数、入院・通院・歯科・薬局の別、医療費の額及び病院名です。

3 通知票の組合員への配付

通知票の組合員への配付は、平成29年11月末日までに各部局等の共済事務担当係から行われる予定です。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■ 博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士99人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士7人に対する学位記授与式を、9月25日（月）に学术交流会館第一会議室において挙行了しました。

式では名和豊春総長から出席者全員に学位記が手渡され、最後は北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）



学位記授与の様子

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏	名	
博士（文学）	エン 閻	ケイ 慧	宮沢賢治童話研究－その共生思想および自己犠牲への道程－ 主査：教授 押野 武志
	シ 時	ユ ケン 滹 軒	大江健三郎の研究－一九八〇年代以降の小説における自作リライトの手法－ 主査：教授 中村 三春
	おおむら (いしはし) のぶえ 大村 (石橋) 伸恵		選言効果の量子意思決定モデルによる分析：ニューカム問題を中心とした行動科学的研究 主査：准教授 高橋 泰城
博士（法学）	バク 朴	クワン ホ 権 浩	韓国における新党の研究－選挙参加・議会進出・持続／消滅－ 主査：教授 空井 護
	まつ もと あや か 松 本 彩 花		カール・シュミットにおける民主主義論の成立過程－第二帝政末期からヴァイマル共和政中期まで－ 主査：教授 権左 武志
博士（経営学）	チョウ 趙	テイ テイ 婷 婷	原価企画研究の展開 主査：教授 吉見 宏
博士（医学）	いけ した しゅん 池 下 隼 司		アテローム性動脈硬化症ならびに肺癌における細胞ストレス誘導分子の発現 主査：教授 岩永 敏彦
	いし かわ こう 石 川 幸 司		急性心不全患者における離床遅延に関連する因子と予後に関する研究 主査：准教授 中村 幸志
	うち の はる と 内 野 晴 登		血漿中microRNA網羅的発現解析によるもやもや病発病・病態修飾因子の探索的研究 主査：准教授 矢部 一郎
	おお はた たか のり 大 畑 多嘉宣		肝細胞癌におけるFatty acid binding protein 5 (FABP5) 発現による上皮間葉転換に関する研究 主査：教授 坂本 直哉
	なか がわ いく ま 中 川 育 磨		原発性シェーグレン症候群の疾患関連遺伝子 <i>GTF2I</i> についての機能解析 主査：教授 清野 研一郎
	にし がみ こう へい 西 上 耕 平		遺伝子プロファイリングによる <i>RAS</i> 、 <i>BRAF</i> 変異型大腸癌の治療戦略の探索 主査：教授 平野 聡
	ひら つか しげ と 平 塚 重 人		生体内石灰化制御分子ピロリン酸をターゲットにした脊柱靭帯骨化進展抑制療法に関する研究 主査：教授 山本 有平

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名	
	氏 名			
博士（医学）	やま かわ とも ひろ 山 川 知 宏		HSP47 siRNA含有ビタミンA結合リポソームは慢性移植片対宿主病の皮膚線維化を改善する 主査：教授 橋野 聡	
	やま むら よし ゆき 山 村 喜 之		抗癌剤投与が癌微小環境を改善する免疫学的機構に関する研究 主査：准教授 北村 秀光	
博士（獣医学）	オ チ ル ク ー OCHIRKHUU ニ ャ ム ス レ ン NYAMSUREN		Epidemiological and immunological study for intractable infectious diseases in livestock (家畜の難治性感染症の疫学および免疫学的研究) 主査：教授 大橋 和彦	
	シ リ ン SHIRIN ア ク タ ー AKTER		Studies on molecular detection of <i>Leishmania</i> infection in stray dogs from Bangladesh (バングラデシュ人民共和国の野犬におけるリーシュマニア感染に関する研究) 主査：特任教授 片倉 賢	
	ジ ー ワ ン JEEWAN タ ハ パ THAPA		Genetic characterization of <i>Mycobacterium orygis</i> isolates from animals of South Asia (南アジアの動物から分離された <i>Mycobacterium orygis</i> の遺伝的特徴) 主査：教授 鈴木 定彦	
	にし もり あさ み 西 森 朝 美		Research for the development of novel control methods for bovine leukemia virus infection (牛白血病ウイルス感染症に対する新規制御法開発のための研究) 主査：教授 大橋 和彦	
	パ ウ リ ナ PAULINA ド ッ ヒ ー タ DUHITA ア ニ ン デ イ タ ANINDITA		Development and Implementation of a Compound Screening Assay to Identify Antivirals against Rabies Virus (狂犬病ウイルスに対する抑制作用を有する化合物のスクリーニングアッセイ法の開発と化合物の探索) 主査：教授 澤 洋文	
	ヤ ン 楊	ユ ン ホ ア 応 華		The effects of theca cell-derived bone morphogenetic protein-4 on <i>in vitro</i> growth, fertilization and subsequent development of bovine oocytes (内卵胞膜細胞由来骨形成タンパク質4が牛卵子の体外発育、受精および胚発生に与える影響) 主査：教授 片桐 成二
	ユ ウ ジ ン EUGENE チ セ ラ CHISELA ブ ワ リ ヤ BWALYA		Disease Modifying Osteoarthritic Drug, Pentosan Polysulfate Sodium Modulates Cytokine-Induced Osteoarthritic Changes and Promotes Articular Cartilage Tissue Regeneration <i>in vitro</i> (変形性関節症病態修飾薬である多硫酸ペントサンは、関節軟骨におけるサイトカイン誘導性関節症病態を変化させ、培養関節軟骨の再生を刺激する) 主査：教授 奥村 正裕	
ヨ ゲ ン ド ラ YOGENDRA サ ハ SHAH		Genetic diversity of multidrug resistant <i>Mycobacterium tuberculosis</i> Central Asian Strain isolates in Nepal (ネパールで分離された多剤耐性中央アジア型結核菌株の遺伝的多様性) 主査：教授 鈴木 定彦		
博士（情報科学）	ソ ン 孫	ロ 露	On Improving Multi-Label Classification via Dimension Reduction (次元縮約によるマルチラベル識別の改善) 主査：教授 工藤 峰一	
	マ ユ ン ボ Mayumbo ニ レ ン ダ Nyirenda		Studies on Approximate Bayesian Computation and Speedup of Spatial Data Access Using Distributed Quadrees (近似ベイズ計算と分散4分木を用いた空間データアクセスの高速化) 主査：教授 有村 博紀	
博士（工学）	さわ だ あつし 澤 田 淳		メゾスコピックリング配列構造におけるスピン回転を伴う弱反局在の実空間シミュレーション手法の開発 主査：教授 本久 順一	
博士（水産科学）	い が ら し ひろ みち 五十嵐 弘 道		アカイカ好適生息域形成メカニズムの解明と推定手法の高度化 主査：教授 綿貫 豊	
	たけ や ゆう へい 竹 谷 裕 平		青森県周辺海域におけるキアンコウの生態および資源に関する研究 主査：教授 綿貫 豊	
	まつ だ あや か佳 松 田 純 佳		日本周辺海域における小型ハクジラの食性 主査：教授 高津 哲也	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（水産科学）	リ 李	テツ 哲	A study on swimming behaviors of larval and juvenile Pacific cod <i>Gadus macrocephalus</i> in relation to temperature and food availability (異なる餌条件と水温におけるマダラ仔稚魚の遊泳行動に関する研究) 主査：教授 高津 哲也
	かね 金子	のぶ 信人	Validation of insulin-like growth factor-I and its binding proteins as physiological growth indices in salmonid species (サケ科魚類におけるインスリン様成長因子-Iおよびその結合蛋白の生理学的な成長指標としての有用性の検討) 主査：教授 都木 靖彰
博士（環境科学）	ひ 樋口	ぐち ゆかり	A study of possibility to make tourism more sustainable in Hokkaido (北海道における観光をより持続可能にする実現性に関する研究) 主査：教授 山中 康裕
	バタール アミット Batar Amit クマール Kumar		Studies on land-use/land-cover change and forest fragmentation with the implications for landslide occurrence in the Garhwal Himalaya, Indias (インド, ガルワール・ヒマラヤにおける土地利用・土地被覆変化および地すべり発生と関連した森林の分断化に関する研究) 主査：教授 渡邊 悌二
	ビヤンバ Byamba ボロルチメグ Bolorchimeg		Sustainability of municipal solid waste management in Ulaanbaatar, Mongolia: benchmarking approach for systems improvement (モンゴル, ウランバートル市における固形廃棄物管理の持続可能性：国際的指標の適用によって示された途上国都市の改善策) 主査：准教授 石川 守
	ヤシル ハヤラ Yasir Haya, La オデム ハンマド Ode Muhammad		Assessment of coral reef degradation and the economic loss in the Pangkajene and Kepulauan Regency, Spermonde Archipelago, Indonesia (インドネシア・スペルモンデ諸島パンカジェネ・ケブラウワン県におけるサンゴ礁の劣化及びその経済損失の評価) 主査：准教授 藤井 賢彦
	リ 李	ファン 芳	Effect of waterlogging on plant carbon isotope discrimination (湛水が植物炭素同位体分別に及ぼす影響) 主査：教授 杉本 敦子
	コウ 孔	ヘイ 夔 カ 禾	Study of the microbial community structure in the rhizosphere of understory dwarf bamboo (<i>Sasa kurilensis</i>) in a <i>Betula ermanii</i> forest, northern Japan (日本北方林のダケカンバ林における下層ササ根圏の微生物群集の構造に関する研究) 主査：教授 原 登志彦
	なか 中	むら 村 しょう 祥 こ 子	Foraging patterns of bumble bees across natural forest-human residential landscape (自然林-宅地景観におけるマルハナバチの採餌パターン) 主査：准教授 工藤 岳
	もも 百	た 田 きょう 恭 すけ 輔	Bottom-up control on mobile invertebrate community in an eelgrass bed: Contribution of different functional groups of epibiotic organisms (アマモ場の移動性無脊椎動物群集にはたらくボトムアップ制御：異なる機能群に属する固着性生物の貢献) 主査：教授 仲岡 雅裕
博士（理学）	デュラル チャンドラ Dular Chandra カビラズ Kabiraz		Surface plasmon resonance immunosensor using Au nanoparticle for detection of beta agonists (β アゴニストを検出するための金ナノ粒子を用いた表面プラズモン共鳴免疫センサの開発) 主査：准教授 川口 俊一
	オウ 王	エイ 咏 キョウ 喬	Timelike Sabban curves in de Sitter space (ド・ジッター空間内の時間的サバン曲線) 主査：特任教授 泉屋 周一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（理学）	つち だ あさひ 土 田 旭		Theory of solvability of generalized Hamiltonian systems and its application to sub-Riemmanian geometry (一般化ハミルトン系の可解性の理論とそのサブリーマン幾何学への応用) 主査：教授 石川 剛郎
	いし げ こう すけ 石 毛 康 介		北海道中央部、大雪火山群の地質学および岩石学的研究－島弧会合部における長期火山活動とマグマ変遷の関連について 主査：教授 中川 光弘
	おか ぎき けん じ 岡 崎 健 治		ベイズの推定を用いた屈折法地震探査と速度検層による岩盤弾性波速度の推定精度の向上 主査：教授 橋本 武志
	シャヤンタニ Sayantani チャテルジ Chatterjee		Petrological and geochemical characteristics of gabbros drilled at IODP site 1415: Evidence for an enriched mantle source beneath the East Pacific Rise. (IODP 地点1415で掘削されたはんれい岩の岩石学および地球化学的特徴：東太平洋海嶺下の肥沃なマントルソースの証拠) 主査：教授 竹下 徹
	リー 李 チョロン		Origin of Intraseasonal Variability in the Eastern Equatorial Indian Ocean: Intrinsic Variability, and Local and Remote Wind-Stress Forcings (赤道東インド洋の季節内変動の起源：内在的変動，遠方および局所的な風応力強制) 主査：教授 見延 庄士郎
博士（農学）	サリンヤ SARINYA タオテープ TAWTHEP		Isolation of the novel secondary bile acid-producing bacteria from rat cecal contents and clarification of their interaction related to deoxycholic acid formation (ラット盲腸内容物からの新規二次胆汁酸生成細菌の単離とデオキシコール酸生成に関わる細菌間相互作用の解明) 主査：教授 横田 篤
	ショウ 鐘	コク セイ 国 盛	Study on the impact of atmospheric pollution on eco-environment changes using satellite remote sensing technique (衛星リモートセンシングを用いた生態環境変化への大気汚染の影響に関する研究) 主査：准教授 王 秀峰
	たか 高 はた 畑 ひろ 裕 き 樹		農業における派遣労働力利用の成立条件に関する研究 主査：教授 坂爪 浩史
	プトリ PUTRI プラティウィ PRATIWI		Jasmonates in the model lycophyte <i>Selaginella moellendorffii</i> : biosynthesis, metabolism, and functions (イヌカタヒバにおけるジャスモン酸類の同定および機能解析) 主査：教授 松浦 英幸
	やま ぎわ むつ こと 山 際 睦 子		大都市学校給食における青果物調達方式の展開論理 主査：教授 坂爪 浩史
	オウ 吳	ソン ジン 成 真	Evaluation of ginkgo fruit as a new feed additive candidate for ruminant animals (反芻家畜における新規飼料添加物候補ギンナン果肉の評価) 主査：教授 小林 泰男
	ジョン 田	ウン ジン 恩 真	The study of salicylic acid-mediated defense responses by a tobacco calmodulin-like protein (タバコカルモジュリン様タンパク質により誘導されるサリチル酸を介した防御応答に関する研究) 主査：教授 増田 税
	マ 馬	ミン 旻	Catalytic mechanism of three α -glucosidases belonging to glycoside hydrolase family 31 (Glycoside hydrolase family 31に属する3つの α -glucosidaseの触媒機構に関する研究) 主査：教授 木村 淳夫
ジョ 趙	ガ ヒョ 佳 賢	Modulation of inflammatory responses by megalo-type isomaltosaccharides (イソマルトメガロ糖による炎症反応の調節作用) 主査：准教授 石塚 敏	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（農学）	セキ石	サト聡	Physiological and stoichiometry study on foliar nutrients and defensive characteristics of representative deciduous broad-leaved tree species in northern Japan under environmental changes (変動環境における北日本の落葉広葉樹の葉成分と防御特性に関する生理的・化学量論的研究) 主査：特任教授 小池 孝良
	チェン程	ニン寧	Production of high concentration bioethanol by fed-batch type simultaneous saccharification and fermentation of lignocellulosics with amphipathic lignin derivatives (両親媒性リグニン誘導体を用いたリグノセルロースの同時糖化発酵による高濃度バイオエタノールの製造) 主査：教授 浦木 康光
	ムクンブタ Mukumbuta イカボンゴ Ikabongo		Carbon, nitrogen and greenhouse gas flux dynamics in cornfield and managed grassland: Effects of land-use change, manure management and liming (飼料畑および草地における炭素, 窒素, 温室効果ガス動態：土地利用, 堆肥施与, 酸性矯正の影響) 主査：教授 波多野 隆介
博士（生命科学）	モハマド ル フール MD. RUHUL クドゥス KUDDUS		Construction of the over-expression system of cysteine-rich plant antimicrobial peptide snakin-1 (植物由来システインリッチ抗菌ペプチドsnakin-1の大量発現系の構築) 主査：准教授 相沢 智康
	シェ徐	ドン冬 ヤン陽	Molecular genetic study of lateral root regeneration on environmental stresses (環境ストレスによる側根再生の分子遺伝学的研究) 主査：准教授 綿引 雅昭
	イマン アブダラ Iman Abdullah		Studies on Nickel-Mediated and -Catalyzed Hydrocarboxylation of Ynamides with Carbon Dioxide (ニッケル錯体を用いた量論的および触媒的なイナミドのヒドロカルボキシル化反応に関する研究) 主査：教授 佐藤 美洋
	サロシン Sarochin サンチワラングール Santiwarangkool		Exploring and Improving lung-targeting function of GALA peptide-modified lipid nanoparticle (GALA修飾脂質ナノ粒子の肺標的化機能の評価および改良) 主査：教授 原島 秀吉
博士（薬科学）	ウェスト クリティアン West Kristian ディオソバライソ D. Paraiso		Development of envelope-type lipid-coated gold nanorods for anti-cancer photothermal therapy (癌の光熱療法を目指した脂質エンベロープ型金ナノロッドの創製) 主査：教授 原島 秀吉
	まつ松	もと本 なお高 き樹	α 9インテグリンとXCL1/Lymphotactinの相互作用同定と自己免疫疾患モデルにおける機能解析 主査：教授 松田 正
	よこ横	え江 たか貴 ゆき之	4-アレナールの不斉ヒドロアシル化の反応機構に関する研究及びローダサイクル中間体を経由するアレン-アルキン-カルボニル間の分子内環化反応の開発 主査：教授 佐藤 美洋
博士（教育学）	さ佐	とう藤 りょう亮 へい平	歴史文化的発展過程からみたサッカーの指導方法に関する研究－教授プログラム作成の試み－ 主査：教授 池田 恵子
博士（国際広報メディア）	か加	とう藤 とも知 え愛	NPOが主導する新しい経営形態を有する組織の創造－地域一体型の複合企業（地域コーポレーション）による地域経営－ 主査：教授 杉浦 秀一
博士（学術）	キョウ邱	リン林 エン燕	中国語結果構文の統語論的研究 主査：教授 山下 好孝
博士（国際広報メディア）	ソウ宋	カ佳	The Impact of Employee Turnover on Knowledge Creation and Firm Performance: A Possible Extension of the SECI Model in the Chinese Context (知識創造と企業パフォーマンスに対する離職のインパクト－中国におけるSECIモデルの拡張可能性－) 主査：教授 伊藤 直哉

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（学術）	ふじ い こと み 藤 井 聡 美	An Investigation into the Effectiveness of Strategies for Reducing Student Language Anxiety (言語不安を解消するための効果的なストラテジーに関する考察) 主査：教授 河合 靖
	あ だち しゅういちろう 足 立 修一郎	大気焼成可能な新規Cu合金電極材料の開発と太陽電池への応用 主査：教授 渡辺 精一
博士（工学）	メルバート ジェーム Melbert Jeem	Submerged photo-synthesis of ZnO nanorods and their opto-electrical properties (ZnOナノロッドの水中結晶光合成と光・電子特性) 主査：教授 渡辺 精一
	ライアン ドゥラ Ryan Dula コルプズ Corpuz	Chemical and Physical Synthesis of Cationically Charged Photoluminescent Noble Metal Nanoclusters (カチオン性フォトルミネセンス貴金属ナノクラスターの化学および物理合成) 主査：教授 米澤 徹
	ひめ の まさ こ 姫 野 雅 子	多目的最適化による動脈分岐形状に関与する流体力学的適応要因に関する研究 主査：教授 梶原 逸朗
	こ ざかい まさ や 小 境 正 也	多孔質流路セパレータによる固体高分子形燃料電池の高出力密度化に関する研究 主査：特任教授 近久 武美
	チャン ポー カン Chan Poh Kam	Study on quantum mechanical drift motion and expansion of variance of a charged particle in non-uniform electromagnetic fields (非一様電磁場中の荷電粒子の量子力学的ドリフト運動と分散の膨張に関する研究) 主査：准教授 及川 俊一
	シヴァ Siva サブ라마ニアン Subramanian スリクリシュナン Srikrishnan	Numerical modelling and geomechanical analyses of soil slope stability evaluation in seasonal cold regions (積雪寒冷地における斜面安定性の数値モデル化と地盤力学的解析) 主査：教授 石川 達也
	ジャグリッティ ミシュラ Jagriti Mishra	Erosion in Bedrock and Alluvial Meanders through 2 Dimensional Numerical Models, Laboratory Experiments and Field Observations (岩盤河床河岸河川および沖積地河川における河岸侵食と蛇行に関する研究) 主査：教授 清水 康行
	オラッスティング Orasutthikul シャニヤ Shanya	Rehabilitation of corrosion damaged reinforced concrete beams with recycled nylon fiber reinforced sprayed polymer cement mortar (リサイクルナイロン繊維を混入したポリマーセメントモルタルによるコンクリート部材の補修効果) 主査：教授 横田 弘
	デン 朋 グル 儒 鄧 朋 儒	Fracture Mechanics Based Fatigue Life Prediction Method for RC Slabs in a Punching Shear Failure Mode (破壊力学に基づく鉄筋コンクリート床版の押し抜きせん断疲労寿命の予測手法) 主査：教授 松本 高志
	ラハマト ウッラー Rahmat Ullah	Mechanical behavior of reinforced concrete beams with locally corroded shear reinforcement (局所的に腐食したせん断補強鉄筋を有する鉄筋コンクリートはりの力学特性) 主査：教授 横田 弘
カラヘ バンディサ Kalahe Panditha コララゲ モハン Koralage Mohan アマラスリ Amarasiri	Human enteric virus removal from wastewater: Contribution of specific interaction (下水中のヒト腸管系ウイルス除去に関する研究：特異的相互作用の貢献) 主査：教授 岡部 聡	
ニキエマ ベネディクト Benedicte キャロル Carolle ウインドヤム Wind-Yam	Development of a system for nutrients recovery from hydrolyzed urine by forward osmosis concentration (正浸透法による加水分解尿からの栄養塩回収システムの開発) 主査：特任教授 船水 尚行	
カンフィラ Khamphila カンドラ Khandala	Comparison of adsorption and post-adsorption behavior of oxyanions between ferrihydrite and schwertmannite (フェリハイドライトとシュベルトマナイトの陰イオン吸着および吸着後の挙動の比較) 主査：教授 佐藤 努	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名	
	氏 名			
博士（工学）	タンウィルーン Tangviroon パウィット Pawit		Study on the Effects of Covering and Adsorption layers on Immobilizing Arsenic from Hydrothermally Altered Rock (熱水変質岩からのヒ素の不溶化に及ぼす覆土層および吸着層の影響に関する研究) 主査：教授 五十嵐 敏文	
	ラナシンガ Ranasingha アラチラギ Arachchilage ナディイカディルルクシ Nadeeka Dilrukshi		Low environmental impact type ground improvement methods using biomineral precipitation (バイオミネラル析出を利用した低環境負荷型地盤改良工法) 主査：教授 川崎 了	
博士（総合化学）	ワン 王	チュン 春	ユン 云	Study on UV Excitable Lanthanide Doped M-SiAlON (M = La, Sr) Phosphors for White LEDs (白色 LED に向けた UV 励起可能な希土類ドーブ M-SiAlON (M = La, Sr) 蛍光体に関する研究) 主査：教授 忠永 清治
博士（理学）	イ 叶	イン 英		Reconstitution of Biosynthetic Gene Clusters for Bioactive Fungal Metabolites (糸状菌由来の生物活性代謝産物に関する生合成遺伝子クラスター再構築による物質生産) 主査：教授 谷野 圭持
	ジャキア Jakia	ジャンナット Jannat	ケア Keya	Study on Biomolecular Motor based Micro-Robot Programmed by DNA Processor (DNAプロセッサによりプログラムされる生体分子モーターを基盤としたマイクロロボットの研究) 主査：教授 坂口 和靖
	シ 史	リ 力		Construction of Metal-organic Frameworks Based Materials for Visible Light Photocatalysis (可視光応答型金属有機構造体の創成と光触媒特性に関する研究) 主査：教授 村越 敬
	ス 蘇	ユ 玉		High-Pressure Synthesis, Crystal Structure and Physical Properties of Layered Manganese and Zinc Oxyhalides (マンガンおよび亜鉛の層状オキシハライドの高圧合成と結晶構造と物性) 主査：教授 武田 定
	たか 高	やま 山	ゆりえ	Asymmetric Synthesis of β -lactams through Copper-Catalyzed Alkyne-Nitrone Coupling (銅触媒によるアルキン-ニトロンカップリング反応を用いた β -ラクタム不斉合成) 主査：教授 鈴木 孝紀
	ハイ 海	シャオ 晓		Controlled Synthesis of Two-Dimensional Transition Metal Disulfide Monolayers for SolarDriven Hydrogen Production (二次元遷移金属硫化物単層の制御合成と光照射下における水素生成助触媒特性) 主査：教授 村越 敬
	タマナ Tamanna	イスラット Ishrat	ファルハナ FARHANA	Study on the Effect of Physical Properties of Microtubules on their Collective Motion by Kinesins (微小管の集団運動における物理特性の影響に関する研究) 主査：教授 武田 定
博士（工学）	カミラ Camila	ウツノミア Utsunomia		Secretion Systems and Applications of Microbial Lactate-based Oligomers (微生物による乳酸オリゴマー分泌システムの構築とその応用研究) 主査：教授 高木 睦
	オフォス Ofosu	チュム Twum	エリック Eric	Organocatalytic Synthesis of End-functionalized Poly (methyl methacrylate)s Using Group Transfer Polymerization (有機触媒を用いたグループトランスファー重合による末端官能基化ポリ(メタクリル酸メチル)の合成) 主査：教授 佐藤 敏文
	かた 片	やま 山	あさ 朝	ひ 陽

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	なか やま かつ とし 中 山 勝 利	Study on Fabrication and Self-Healing of Superoleophobic Practical Metal Surfaces (実用金属表面の超撥油化と自己修復性付与に関する研究) 主査：教授 安住 和久
	アシュビニ ASHVINI ボザール BHOSALE	Phase-Separation Aided Heterogeneous Catalysis for Selective Hydrogenation of Nitriles to Primary Amine and Its Derivatives (ニトリル類の一級アミンおよびその誘導体への選択的水素化のための相分離型不均一系触媒作用) 主査：教授 向井 紳

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（経済学）	た なか ひで あき 田 中 英 明	信用機構の政治経済学－商人的機構の歴史と論理－ 主査：教授 岡部 洋實
博士（医学）	かつ ぬま こう きら 勝 沼 功 吉	炎症回路とT細胞の活性制御機構に関する研究 主査：教授 笠原 正典
	さ とう まさし 佐 藤 まさし 雅	肥満誘導におけるNKT細胞－脂肪細胞の相互作用の役割 主査：教授 笠原 正典
博士（獣医学）	た むら のり ひさ 田 村 周 久	ウマ浅指屈筋腱の損傷部に対する超音波エラストグラフィ検査の応用 主査：教授 滝口 満喜
博士（環境科学）	り 李 シャオ ヤン 李 肖 陽	Study on stable isotopes of precipitation in Hokkaido, North Japan (北海道の降水の安定同位体比に関する研究) 主査：教授 杉本 敦子
博士（農学）	せき もと しげ ゆき 関 本 茂 行	Characterization of Japanese populations of the clover cyst nematode, <i>Heterodera trifolii</i> , and the Korean cyst nematode, <i>H. koreana</i> (日本産クローバシストセンチュウおよびタケシストセンチュウ個体群の特徴) 主査：准教授 吉澤 和徳
	はやし しんいちろう 林 真一郎	広域土砂災害の被害状況把握手法に関する研究 主査：教授 山田 孝

レクリエーション

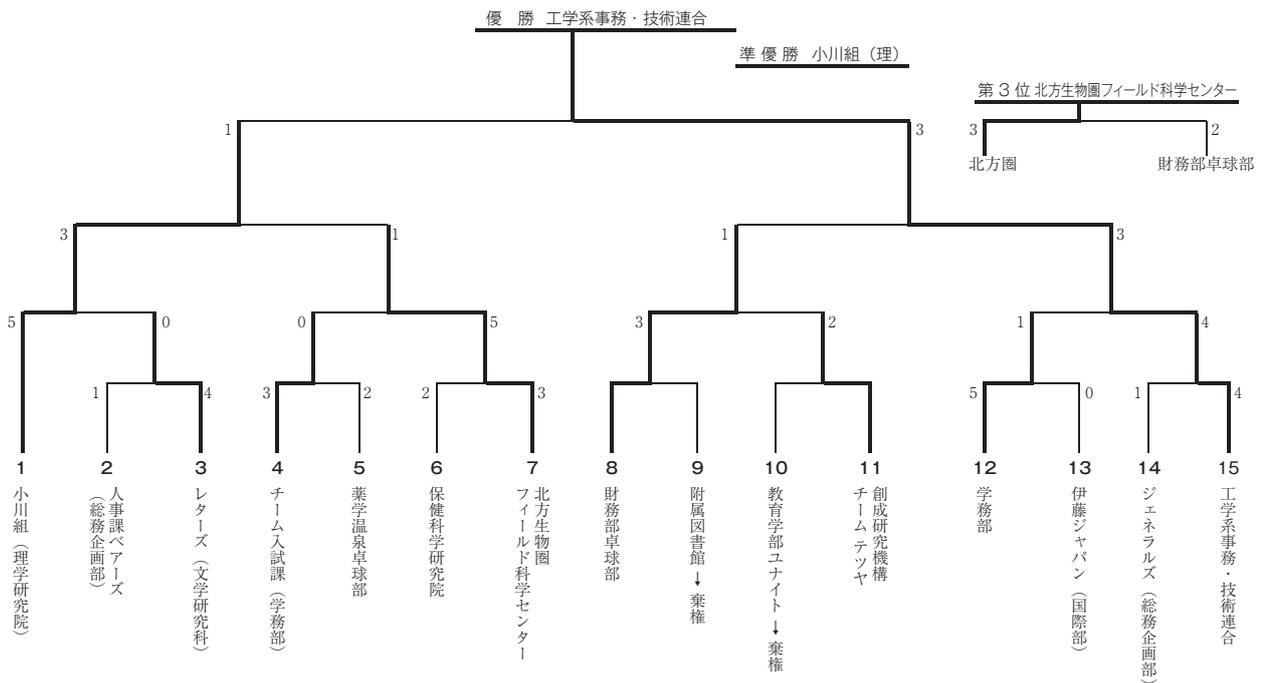
教職員卓球大会の開催 ー団体戦・ペア・個人戦ー

8月29日（火）から9月8日（金）にかけて、学内教職員卓球大会を小体育館で開催しました。
 団体戦に15チーム146名、ペア2クラスに16ペア、個人戦に13名が参加し、声援のなか熱戦が繰り広げられました。
 なお、対戦結果は以下のとおりです。

(職員卓球部)

平成29年度 教職員卓球大会 (団体戦)

8月29日 (火) ~ 9月4日 (月)



個人戦：9月5日 (火)・6日 (水)

クラス	優勝	準優勝	第3位
一般	杉森 博行 (保健)	武田 裕二 (研究支援)	天野 愛 (北方圏)

ペア：9月6日 (水)~8日 (金)

クラス	優勝	準優勝	第3位
ハイレベルフリー	平松・竹田 (厚生労務)	木村・小林 (理・触媒)	小田桐・清水 (学務企画・入試)
超ビギナー	山田・富田 (北方圏)	山本(英)・中野 (農)	山添・秋永 (人事)



団体戦優勝 工学系事務・技術連合



大会風景

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成29年9月6日）

協議事項・インテグレイテッドサイエンスプログラムの実施について

- ・JAグループ北海道との包括連携協定について
- ・諸規則の制定及び一部改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2017の実施報告について

- ・平成29年度オープンキャンパス及び北海道大学進学相談会（東京会場）開催結果について
 - ・平成30年度概算要求について
-

教育研究評議会（平成29年9月14日）

議 題・インテグレイテッドサイエンスプログラムの実施について

- ・JAグループ北海道との包括連携協定について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2017の実施報告について

- ・平成29年度大学の世界展開力強化事業の採択について
 - ・大学文書館における法人文書の集中管理について
 - ・平成30年度概算要求について
 - ・学生の懲戒について
-

役員会（平成29年9月22日）

議 案・インテグレイテッドサイエンスプログラムの実施について

- ・JAグループ北海道との包括連携協定について
- ・諸規則の制定及び一部改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・東日本大震災等で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について

- ・平成29年人事院給与勧告等について
 - ・運営費交付金の重点支援に係る評価指標の進捗状況について
 - ・平成28事業年度財務諸表の承認について
-

経営協議会（平成29年9月29日）

報告事項・平成30年度概算要求について

- ・第3期中期目標期間における財政計画及び教員人件費削減方策の策定について

そ の 他・平成29年人事院給与勧告等について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第199号)

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて、加工等料及び技術相談料の区分を見直すとともに、材料加工に使用する設備の追加及び削除を行うこと並びに加工等料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第200号)

本年10月1日付けで、総務企画部広報課並びに国際部の国際企画課及び国際連携課の事務分掌を改めること並びに研究推進部研究振興企画課にWPI対策室を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学通則の一部を改正する規則 (平成29年10月1日海大達第201号)

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則 (平成29年10月1日海大達第202号)

北海道大学の第1年次の学生に係る履修、修学等に関する規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第203号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第205号)

北海道大学理学部規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第208号)

本年度からインテグレイテッドサイエンスプログラムを実施することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程 (平成29年10月1日海大達第204号)

実践的な英語能力を有する外国人留学生に対し、理系の学問領域における高度な教育を行うとともに、その学修で得られた専門性を活用し、課題解決に結びつける能力等を培うことにより、国際的に活躍するために必要な専門的能力及びリーダーとしての資質を備えた理系の研究者及び技術者を育成することを目的としたプログラムとして、インテグレイテッドサイエンスプログラムを実施することに伴い、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学百年記念会館規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第206号)

本年9月限りで、百年記念会館の小会議室を廃止するとともに、食堂を外部業者に委託してレストランとしたことにより、同施設の占有利用の手続きについても同業者が行うこととするに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規程の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第207号)

本学のオープンファシリティについて、使用料の区分を見直すとともに、設備の追加、削除及び使用料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員育児休業・介護休業等規程の一部を改正する規程 (平成29年10月1日海大達第209号)

育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（平成3年法律第76号）の一部改正に伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
29.9.13	Irit Savion Waidergorn 駐日イスラエル大使館公使	両国の交流に関する懇談
29.9.22	南京大学（中国）Chen Jun 学長	両大学の交流に関する懇談
29.10.2	カントー大学（ベトナム）Tran Trung Tinh 副学長	両大学の交流に関する懇談



Irit Savion Waidergorn 駐日イスラエル大使館公使
(中央左)



南京大学(中国) Chen Jun 学長(前列中央右)



カントー大学(ベトナム) Tran Trung Tinh 副学長
(前列左)

(国際部国際連携課)

人事

平成29年10月1日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【部局長・施設長等】 大学院地球環境科学研究院長 大学院環境科学院長 (期間：平成31年9月30日まで) 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長 (期間：平成31年9月30日まで)	大原 雅	大学院地球環境科学研究院教授
	玉置 信之	電子科学研究所教授
【副研究科長・副研究院長等】 大学院地球環境科学研究院副研究院長 (期間：平成31年3月31日まで)	松田 冬彦	大学院地球環境科学研究院教授
【教授】 大学院理学研究院教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 (転出) 東京大学大学院理学系研究科教授 山口大学教授	河村 裕 長 縄 宣博 野 町 素己	大学院理学研究院学術上席専門職 スラブ・ユーラシア研究センター准教授 スラブ・ユーラシア研究センター准教授
	橘 省吾 中 川 伸	大学院理学研究院准教授 大学院医学研究院准教授
【次長・政策調整室長】 政策調整室長 財務部次長(兼)財務部調達課長	佐々木 博之 大 道 元	財務部次長(兼)財務部調達課長 政策調整室長
【課長・室長・事務長】 研究推進部研究振興企画課WPI対策室長 メディア・観光学事務部事務長 (出向) 北海道教育大学総務部人事課長	眞野 茂樹 紙 丸 雅実 鴨志田 敏則	メディア・観光学事務部事務長 総務企画部人事課課長補佐 事務局付(帯広畜産大学出向中)

新任部局長等紹介

平成29年10月1日付

地球環境科学研究院長・環境科学院長に



おおほら まさし
大原 雅 教授

平成29年9月30日限りで久保川厚地球環境科学研究院長・環境科学院長が任期満了となり、その後任として大原雅教授が発令されました。

任期は、平成31年9月30日までです。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和33年2月1日
- 昭和55年3月 北海道大学農学部卒業
- 昭和57年3月 北海道大学大学院環境科学研究科修士課程修了
- 昭和62年7月 北海道大学農学部助手
- 平成2年3月 理学博士（京都大学）
- 平成7年8月 北海道大学農学部助教授
- 平成8年11月 東京大学大学院総合文化研究科助教授
- 平成12年3月 北海道大学大学院地球環境科学研究科助教授
- 平成15年4月 北海道大学大学院地球環境科学研究科教授
- 平成17年4月 北海道大学大学院地球環境科学研究院教授
- 平成27年10月 } 北海道大学大学院地球環境科学研究院副研究院長
- 平成29年9月 }

新任教授紹介

平成29年10月1日付



理学研究院教授に

かわむら ひろし
河村 裕 氏

理学研究院国際化支援室

最終学歴

ドイツキール大学数学・自然科学学部修了(平成14年12月)
博士（自然科学）（キール大学）

専門分野

高等教育・科学研究の国際化, 国際共同研究プロジェクト,
海洋地質学



スラブ・ユーラシア研究センター
教授に

ながなわ のりひろ
長縄 宣博 氏

中央ユーラシア部門

生年月日

昭和52年2月7日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学(平成18年3月)
博士（学術）（東京大学）

専門分野

中央ユーラシア近現代史



スラブ・ユーラシア研究センター
教授に

の まち もと き
野町 素己 氏

地域比較部門

生年月日

昭和51年 4月 5日

最終学歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学(平成20年 3月)
博士(文学)(東京大学)

専門分野

スラブ語学, 言語学

新任部課長等紹介

平成29年10月1日付



メディア・観光学事務部事務長に

かみまる まさみ
紙丸 雅実 氏

昭和37年 7月 7日生

昭和56年 3月 北海道羽幌高等学校卒業
昭和56年 4月 北海道大学工学部経理課
昭和59年 5月 北海道大学医学部附属病院医事課
平成 3年 4月 北海道大学農学部附属農場
平成 6年 4月 北海道大学工学部経理課
平成 8年 4月 北海道大学農学部附属演習林天塩地方演習林主任
平成11年 4月 北海道大学経理部第一契約課付主任
平成14年 4月 旭川工業高等専門学校会計課係長
平成17年 4月 北海道大学病院医療支援課専門職員
平成17年10月 北海道大学病院経営企画課係長
平成19年 4月 北海道大学企画部情報企画課係長
平成20年 4月 北海道大学経済学研究科・経済学部係長
平成22年 4月 北海道大学法学研究科・法学部係長
平成24年 4月 北海道大学病院医事課医療支援室室長補佐
平成26年 4月 北海道大学病院医療支援課課長補佐
平成27年 4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐

訃報

名誉教授 まつかわ 松川 けんじ 健二 氏
(享年85歳)



名誉教授 松川健二先生は病氣療養中のところ、平成29年8月19日に逝去されました。ここに先生の生前の功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

松川先生は、昭和7年2月、北海道函館市に生まれ、同29年3月、北海道大学文学部を卒業された後、北海道美唄工業高等学校教諭を経て、同37年8月、北海道大学文学部に助手として採用されました。その後、昭和47年8月、北海道大学文学部助教授に、同58

年4月、同教授に昇任されました。平成7年3月、北海道大学を定年退官されるとともに、同年4月、北海道大学名誉教授となられ、同12年9月、北海道大学より文学博士を授与されました。また、平成7年4月より同14年3月までは、二松學舎大学文学部教授として教鞭を執られ、その後は斯文会で論語素読の講師を務められました。

先生は、北海道大学在職中、教養部では漢文講読、文学部では中国哲学演習、大学院文学研究科では中国近世近代哲学史演習の授業を担当され、その真摯な指導によって数多くの有能な人材を育成されました。

先生の専門分野は、宋明思想研究、『論語』解釈史研究、日本漢学研究等多岐にわたり、その研究活動を通して多数の業績を残されました。著書の『宋明の思想詩』（北海道大学図書刊行会）、『論語の思想史』『宋明の論

語』（汲古書院）、『山田方谷から三島中洲へ』（明德出版社）は、その一端です。さらに業績は、国内はもとより海外においても高く評価され、例えば、『論語の思想史』は、中国語に全文翻訳され、台湾で『論語思想史』（萬卷楼）として出版されました。

また、先生は永く北海道中国哲学会会長を務められ、学界において指導的な役割を果されました。加えて北海道大学卓球部顧問教官を担当され、学生の課外活動の指導にも尽力されました。

このように、先生の研究・教育活動の発展に尽くされた功績は計り知れません。ここに松川先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(文学研究科・文学部)

編集メモ

●秋の空に木々の彩りが美しく映える季節となりました。キャンパス内の木々も、赤や黄色に色づき、キャンパスに彩りを添えています。イチョウ並木は、連日多くの方で賑わっています。

●9月30日（土）に開催した本年のホームカミングデーは、多くの同窓生等の皆様をお迎えし、無事終了いたしました。次回は平成30年9月29日（土）の開催を予定しております。





2016.10.9 石北本線 生田原～西留辺蘂（遠軽町）

北の鉄道風景 55 タマネギ列車

道内と道外間の物流の根幹を担う貨物列車。1年を通して定期的に運行されるものに加えて、農産物の収穫期にあたる秋・冬期間のみ、道内で収穫された農産物を道外へ輸送する目的で運行される貨物列車がある。その代表例が石北本線の新旭川～北見間で運行される臨時貨物列車であろう。同列車は、北見地方の特産品であるタマネギを輸送するために運行されることから、通称「タマネギ列車」と呼ばれ

ている。写真は黄葉の常紋峠に挑むタマネギ列車である。早朝の峠を越えて北見に到着した列車のコンテナには、沿線で収穫されたタマネギが積み込まれる。そして、夜の帳が下りる頃、タマネギを満載した列車は終着の新旭川を目指して北見を発つ。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑩ No.763 平成29年10月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html